

Minebea Group CSR Report 2016

ミネベアグループ CSRレポート



目次

目次・編集方針・会社概要	1
トップコミットメント	3
社会の中のミネベア製品	5

特集1 地域と考えるミネベアのCSR	7
---------------------------	---

特集2 対話を通じてCSRを実現する	11
---------------------------	----

マネジメント報告

CSR推進活動の目標と実績	15
ミネベアグループのCSR	17
コンプライアンス	19
リスクマネジメント	20

社会性報告

お客様とのかかわり	21
従業員とのかかわり	23
お取引先様とのかかわり	26
地域社会・国際社会とのかかわり	27
株主の皆様とのかかわり	29

環境報告

環境マネジメント	30
地球温暖化防止の取り組み	32
資源の有効活用の取り組み	33
環境負荷物質削減の取り組み	34
製品における環境への取り組み	35
第三者意見	36

編集方針

ミネベアグループでは、ステークホルダーの皆様にご覧いただき、当社グループのCSRに対する考え方、取り組みについてお伝えするために、毎年CSRレポートを発行しています。当社グループの代表的な取り組みを掲載した本レポートに加え、当社グループウェブサイトにて、コーポレートガバナンス体制や環境活動など、多くの活動について詳細に報告しています。

2015年度レポートでは、事業活動を行う周辺地域とのコミュニケーション事例として、浜松工場で行ったダイアログの様子と、ステークホルダーとの対話を重視した、中国・上海ミネベアにおけるCSRの取り組みについて、特集として紹介しています。また、続く「マネジメント報告」「社会性報告」「環境報告」のページでは、CSR目標に対する取り組みの進捗状況を報告しています。

CSRレポートの発行は、読者であるステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの一つであると考え、適切で分かりやすい報告を心掛けています。当社CSR活動について率直なご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

● 報告書の対象範囲

ミネベアおよびグループ会社77社

● 報告書の対象期間

2016年3月期（2015年4月1日～2016年3月31日）

ただし、上記期間以前や2016年度の活動も一部含まれています。

● 発行情報

2016年9月発行（前回：2015年9月発行）（次回：2017年9月発行予定）

● 参考にしたガイドライン

財団法人日本規格協会「ISO26000:2010」

GRI「サステナビリティ レポーティング ガイドライン第3.1版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

● 報告書に関するお問い合わせ

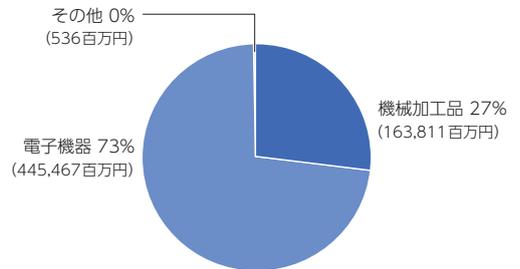
ミネベア株式会社 人事総務本部 CSR推進室

TEL:03-6758-6724

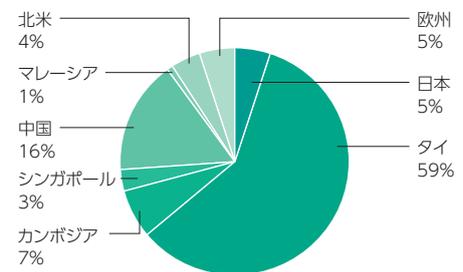
会社概要 (2016年3月末時点)

社名	ミネベア株式会社 (Minebea Co., Ltd.)
本社所在地	〒389-0293 長野県北佐久郡御代田町 大字御代田4106-73 TEL: 0267-32-2200
東京本部所在地	〒108-8330 東京都港区三田3-9-6 TEL: 03-6758-6711
設立年月日	1951年7月16日
資本金	68,258百万円
代表者	代表取締役 社長執行役員 貝沼 由久 (かいぬま よしひさ)
事業内容	機械加工品事業、電子機器事業など
売上高	連結：609,814百万円
営業利益	連結：51,438百万円
経常利益	連結：46,661百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	連結：36,386百万円
従業員数	連結：62,480名
連結子会社数	68社

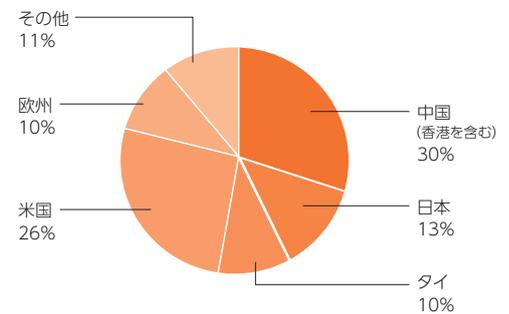
事業別売上高 (2015年度)



地域別生産高 (2015年度)



地域別売上高 (2015年度)



CSRウェブサイト掲載情報 <http://www.minebea.co.jp/corp/environment/index.html>

ミネベアグループウェブサイトでは、コーポレートガバナンスや冊子に掲載しきれなかったより詳細な情報と最新の活動報告についても随時公開しています。また、投資家向けの情報も掲載していますので、併せてご覧いただければ幸いです。

› 投資家向け情報

› CSRレポート2016詳細情報

› 最新CSR活動情報

› コーポレートガバナンス情報



2015年度を振り返って

2015年度は、需要の拡大を背景にボールベアリングやモーター、そしてセンシングデバイスに名称を変更した計測機器それぞれが堅調に拡大し、増収・増益を達成することができました。この結果、2016年3月期の売上高は前年同期比で21.8%増の6,098億1,400万円となりましたが、営業利益は14.4%減の514億3,800万円、純利益は8.8%減の363億8,600万円にとどまりました。一部、お客様の減産などの影響から減益となったものの過去最高の売上高を達成しました。これも私たちの原点である「真摯なものづくり」を追求してきた結果であると考えています。

今後も事業活動の基盤を確かなものとしながら、持続的成長を続けていくためには、CSRの基本である「五つの心得」を軸としたCSRの実践が不可欠です。これを強力に進めるため、2015年11月にこれまで経営の基本方針としてきた「五つの心得」を社是に位置付け、グループ全体で追求していくことを打ち出しました。さらに、グループ拠点におけるCSR課題を確認し、グローバルでのCSRマネジメント体制を強化しています。

また、ステークホルダーの皆様との直接のコミュニケーションを通して、当社グループへの期待を確認していくことも重要です。2015年度は、これまで日本とタイで実施してきたCSR調達に関するアンケート調査を中国でも実施し、お取引先様とともにCSRを推進する体制を強化しています。国内では、地域ダイアログを2016年5月に浜松工場がある静岡県袋井市で実施しました。市長様をはじめ地域の方々をお招きし、地域の皆様からさまざまなご要望やご意見を伺いました。いただいたご意見に対しては、今後の工場運営や事業展開に生かせるよう、真摯に取り組んでまいります。



ミネベア株式会社
代表取締役 社長執行役員

具沼由久

社会価値を創造するものづくりで さらなる成長を確かなものに

ミネベアグループは、「ミネベアグループのCSR実践に向けた活動方針」に「製品を通じた社会価値の創造」を掲げているとおり、製品の開発・生産を通じて社会へ貢献することが、ものづくり会社としての使命であると考えています。社会価値を創造するものづくりにより、事業を拡大し持続的な成長を実現するための施策として、2015年に「新『5本の矢』戦略」を打ち出しました。

例えば、自動車用エンジンの省エネルギー化や、航空機の燃費改善といったニーズに見られるように、最終製品の高級化・高性能化への対応として、高付加価値製品の開発を含めた従来製品の強化に取り組んでいます。また、当社グループが培ってきた、要素技術から超

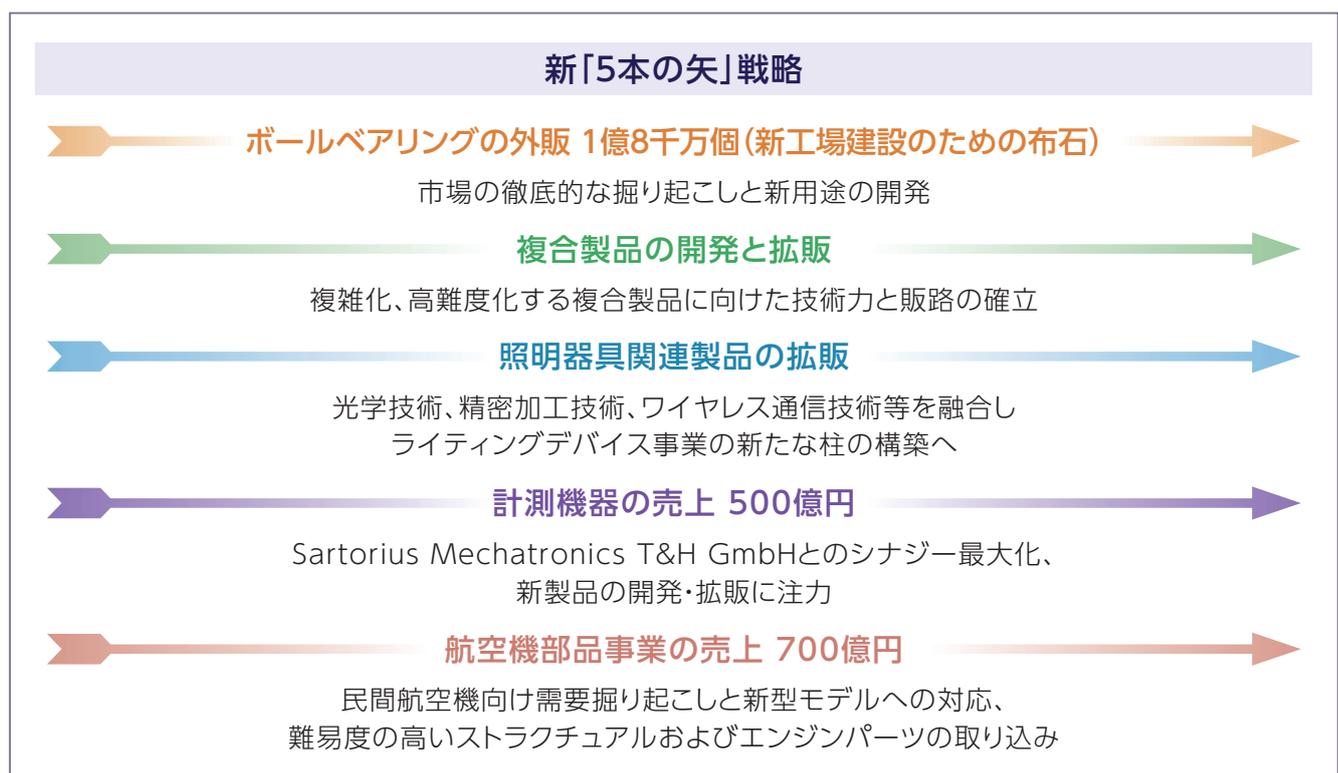
精密加工技術、アッセンブリー技術に至る高度な技術力を駆使するだけでなく、さまざまなソフトウェアを含めた複合製品の提供をオンリーワンの価値として進めています。2015年度は、液晶用バックライトの製造などで培った光学技術に、回路、モーター、無線技術を融合させたLED照明器具「SALIOT (Smart Adjustable Light for the Internet Of Things、サリオ)」を発表し、新たな価値創造に向けた挑戦を続けています。

2016年3月30日には、ミツミ電機株式会社(以下、ミツミ電機)と経営統合について最終契約を締結しました。両社は業種こそ近いものの重なり合う部分が少なく、さらに兼ね備える競争力の源泉が異なるため、協業によりものづくりにおけるシナジーを創出することができると考えています。特に、ミツミ電機のさまざまな開発技術と、ミネベアの内製組み立て装置・金型設計・製造力や量産力とを結びつけることで、真のソリューションカンパニーとして、より付加価値の高い製品を創造し、企業価値を最大化させてまいります。

創立100周年への基盤づくりを通して 将来へ向けた持続的な成長へ

ミネベアグループのトップに就任した2009年4月、私は創立100周年へ向けた確かな基盤づくりに取り組んでいくことをお約束しました。この基盤をより強固なものへと進化させていくためには、グループの従業員一人ひとりが「真摯なものづくり」に取り組んでいくことが不可欠です。創立60周年に掲げたスローガン「Passion to Exceed Precision」の下、経営トップ以下すべての従業員が情熱を持って、持続的な成長に向かって取り組んでまいります。

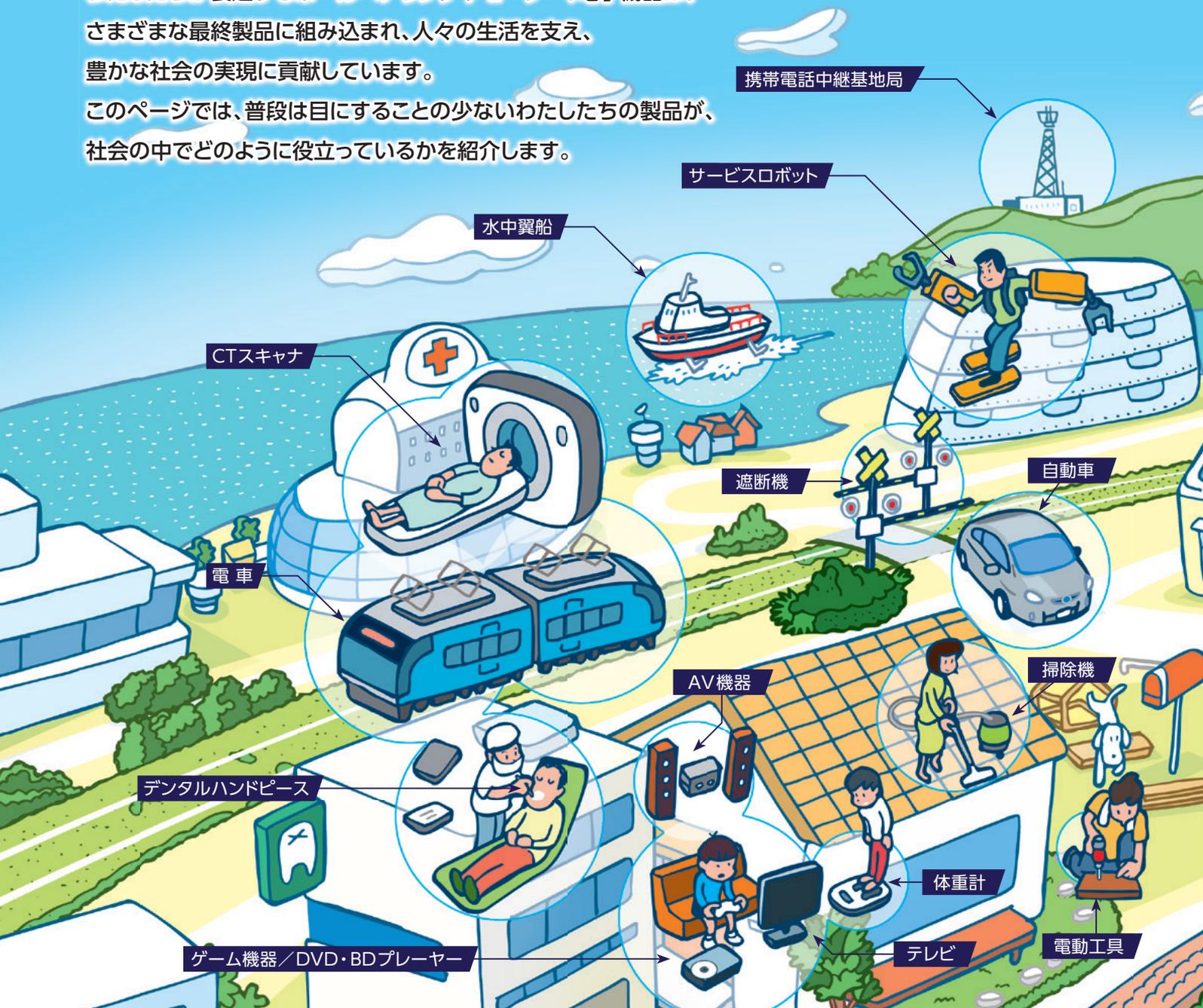
本レポートでは、私たちミネベアグループがいま取り組んでいる事業活動とCSR活動について多彩な角度から詳しく紹介しています。多くの皆様からご意見を頂戴して今後の企業活動に反映させてまいります。皆様からの忌憚のないご意見をお待ちしております。



社会の中のミネベア製品

わたしたちが製造するボールベアリングやモーター、電子機器は、さまざまな最終製品に組み込まれ、人々の生活を支え、豊かな社会の実現に貢献しています。

このページでは、普段は目にする事の少ないわたしたちの製品が、社会の中でどのように役立っているかを紹介します。



機械加工品

● 製品

ボールベアリング/
ロッドエンド&スフェリカルベアリング/
ローラーベアリング/ファスナー/
ピボットアッセンブリー/精密機械加工品



● 製品用途

パソコン、HDD、プリンター、
情報通信機器、OA機器、家電製品、
現金自動預払機、自動車、航空機



電子機器

● 製品

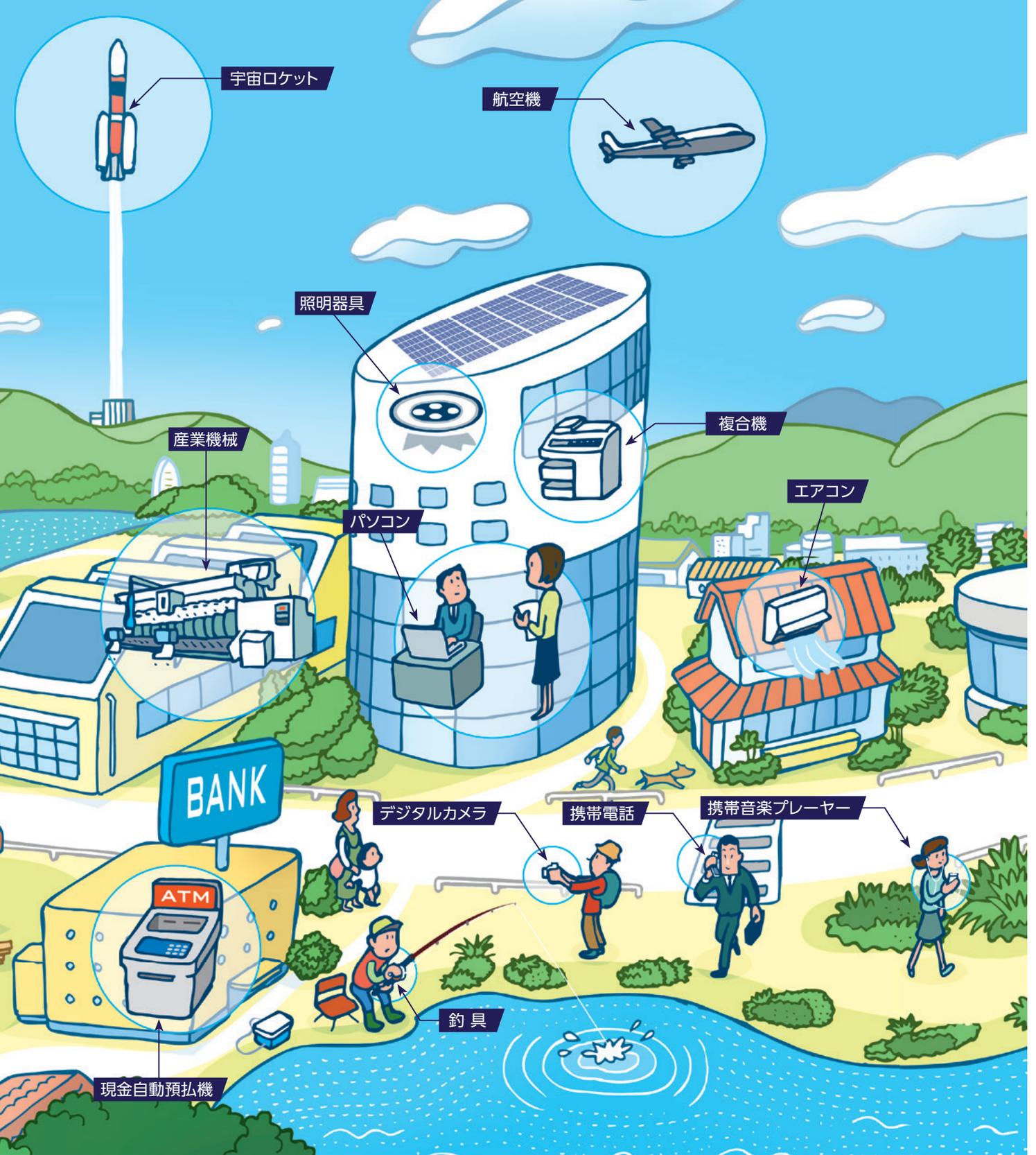
HDDスピンドルモーター/
小型精密モーター/
ステッピングモーター/
ブラシレスモーター/ファンモーター



● 製品用途

パソコン、サーバー、HDD、プリンター、
情報通信機器、OA機器、家電製品、
AV機器、携帯電話中継基地局、産業機械、
自動車



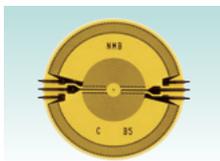
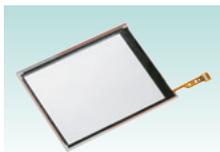


● 製品

液晶用ライティングデバイス/
各種計測機器/
ファンユニット/
LED照明器具

● 製品用途

パソコン、デジタルカメラ、携帯電話、
スマートフォン、携帯音楽プレーヤー、
プロジェクター、計量装置、
自動車、宇宙ロケット、照明器具



● 製品

特殊機器

● 製品用途

産業機械、防衛装備品、自動車



2016年5月、ミネベアの浜松工場（静岡県袋井市）において、地域の方々にご参加いただいたステークホルダー・ダイアログを開催しました。ミネベアの歩みや事業内容をご説明し、工場内をご見学いただいた後、活発な議論を交わしました。



ダイアログ参加者一覧

袋井市の皆様		ミネベア株式会社	
袋井市長	原田 英之 氏	取締役専務執行役員 電子機器製造本部長	藤田 博孝
袋井市特命理事 兼 防災監	金原 富雄 氏	常務執行役員 財務・コンプライアンス推進部門 CSR推進室、コンプライアンス推進室担当	松田 達夫
袋井市産業環境部長	鈴木 亨 氏	浜松人事総務課 次長	富田 泰久
袋井市教育部長	大河原 幸夫 氏	施設部浜松施設課 課長	竹田 幸弘
袋井市産業環境部産業振興課長	幡鎌 俊介 氏	グループ環境管理部 環境管理室(浜松) 主任	石川 英之
袋井市総務部防災課長	磯部 剛 氏	CSR推進室 室長	石河 正樹
袋井商工会議所 会頭	豊田 富士雄 氏	CSR推進室	入江 秀次
静岡理科大学 学長	野口 博 氏		
浅羽町商工会 会長	柴田 猛 氏		
浅羽北自治会連合会長	戸塚 一美 氏		
		ファシリテーター	
		株式会社クラン CSRコンサルタント	水上 武彦 氏

※参加者の役職は開催時のもの(2016年5月20日)

はじめに

藤田 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。ミネベア浜松工場は、1986年に電子デバイス市場への参入を目的としてこの地で操業を開始し、研究開発とものづくりに取り組んできました。浜松工場では、これまでも地域行事への協賛や工場見学の受け入れなどを行ってききましたが、地域の方々との直接的なコミュニケーションに、



ミネベア 藤田

今後ますます力を入れていきたいと考えております。今回、皆様からぜひミネベアの取り組みに対する率直なご意見やご要望をいただき、今後につなげていければと思っております。

グローバルに事業展開する企業として

原田氏 今回浜松工場を見学させていただき、ミネベアという会社をととても身近に感じることができました。グローバルに事業を営まれる企業が袋井市にも拠点を持つのは大変心強いことです。2019年には、袋井市でラグビーワールドカップの開催が予定される中、



袋井市長
原田氏

市として国際化への対応をどう進めていくかが課題となっております。いろいろアドバイスをいただければと思っています。また、さまざまな自治体がまちづくりに試行錯誤する中、企業が地域と一緒にあってこれに取り組まれようというお考えは素晴らしい

ことだと思います。国内においても貴社は数多くの拠点をお持ちですので、こうした活動による知見をぜひ我々にも共有いただけるとありがたいです。

松田 当社では、これまでもこうしたダイアログを軽井沢工場（長野）と米子工場（鳥取）で実施するなど、事業地周辺の方々とのコミュニケーションに努め、地域が抱える課題を共有してきました。わたしたちの経験が、袋井市の皆様にお役に立



ミネベア 松田

てるのであれば、それはとても光栄なことです。



袋井商工会議所 会頭
豊田氏

豊田氏 グローバルに活躍される貴社であるからこそ、袋井という地域を世界にアピールすることにもお力添えいただけると嬉しいです。例えば、袋井は昔から茶の栽培がさかんな地域ですが、緑茶は目の疲れを癒やすなどの健康効果が注目さ

れています。袋井茶を貴社の世界の拠点で飲んでいただいたりできれば、それは非常にインパクトの大きなことだと思います。

藤田 おっしゃる点、大変よく理解できます。袋井茶をはじめ、地域の特産品はわたしたちも普段おいしくいただいておりますので、社内で推奨したりなど、ご協力できる形もあるかと思

地域で活躍する若い人材を育てるために

野口氏 浜松工場では、828名の従業員のうち43%が袋井市に在住、さらに浜松・磐田・掛川の近隣を含めるとおよそ80%が地元在住の方というのは素晴らしいことです。貴社での勤務は、若者がこの地域で活躍する良いモデルケースとなっているので



静岡理科大学 学長
野口氏

しょう。今後もぜひ、地元の良さを若い世代に伝えていただければと思います。その点でも、工場見学

の機会を多く設けていただけると、社会で役立つ製品がこの工場です。本学の学生も理工系ですので、インターンシップや採用活動などの際、地元大学として意識いただけるとありがたいですね。

藤田 工場見学の受け入れは、これまでも実施してきましたが、ご要望をいただければ可能な限り対応させていただきます。また、同じく地元大学へ従業員を講師として派遣するといった取り組みも既に行っておりまして、当社にとっても非常に有意義な交流だと感じています。海外での事業展開や生産活動について当社の経験をお話するなど、学生さんに役立つことでしたら、積極的に協力させていただきます。

豊田氏 工場見学などを通し、最先端のものづくりを目にするというのは、子どもや将来の進路を考える学生への良い刺激となるのでしょうか。また、商工会議所では産業観光にも力を入れており、袋井市内で毎年開催される「全日本学生フォーミュラ大会」を後援しております。これは、学生が自ら設計・製造した車両の性能を競い合うものですが、貴社の事業とも関係性が深い分野ではないでしょうか。

藤田 はい。全日本学生フォーミュラ大会では、各大学から依頼を受け、ロッドエンドベアリングなどの部品を

寄付させていただいています。その際、一部の学生には浜松工場へ見学に来ていただくこともあります。当社としても、大会を機に優秀な学生に興味を持ってもらえるのは、採用活動上の大きなメリットとなります。

地域での事業やイベントを通じたコミュニケーション

野口氏 本学では「産学コラボネット」を立ち上げて、現在、袋井市周辺の70社ほどの企業とさまざまな部会で連携させていただいています。その中には、スマートシティや計測機器関連など貴社とも関係性が深いと思われる取り組みもあり、ぜひ関心を持っていただければ幸いです。また、スマートシティについては、袋井市でもLED照明を使ってエコパスタジアムまでの道を整備する計画が進んでいるようです。

藤田 とても興味深いですね。スマートシティに関しては、当社でも環境省の事業として、カンボジアに無線機能付きLED街路灯約9,000本を設置するプロジェクトを進めています。例えばエコパスタジアムの件でも、もし街路灯を変えろということでしたら、培ってきたノウハウを生かして貢献することもできるかと思えます。



浅羽町商工会 会長
柴田氏

柴田氏 今回、わたしも浜松工場を見学させていただき、貴社の製品や技術力の高さに非常に感心しました。一方で、地元の住民として感じるのは、貴社の存在がまだ十分に地域では知られていないのではという点です。例えば浅羽地域では、11月に地域振興を図る産業祭として「袋井市ふれあい夢市場」を開催

していますが、ぜひこうした場で、貴社の事業や製品をアピールしていただければと思います。

藤田 ありがとうございます。わたしたちも、地域でのPR活動は課題に感じています。事業を展開する周辺の皆様に、ミネベアという会社をよくご理解いただくこと

は非常に重要と考えておりますので、そのような機会には積極的に参加させていただきたいです。

柴田氏 アピールいただくことで地域が貴社に親近感を持つようになると、住民や自治体などからもコミュニケーションが取りやすかったり、さまざまな要望が上がってきたりもするでしょう。貴社からどんどん働きかけていただくことを期待します。

対話を続け、ともにより良い街づくりを目指す



浅羽北自治会連合会長
戸塚氏

戸塚氏 災害対策は地域の重要なテーマの一つといえますが、万一の大きな災害発生時には、こちらの工場のスペースを地域住民にも活用させていただくことはできるでしょうか。

藤田 当社では、地震などの災害時に備えて日頃から食料や水を備蓄しており、近隣の方々も受け入れられるよう、ある程度の余裕を持たせています。地域の一員として、有事の際はできる限りのお役に立ちたいと考えています。

金原氏 先日、袋井市の防災監として熊本地震の被災地に行っていました。熊本の状況を見ますと、やはり震災は市が単独で対応できるようなものではなく、市民の方々や企業にも協力を求めていかなければならないと再認識しました。袋井市でも災害時

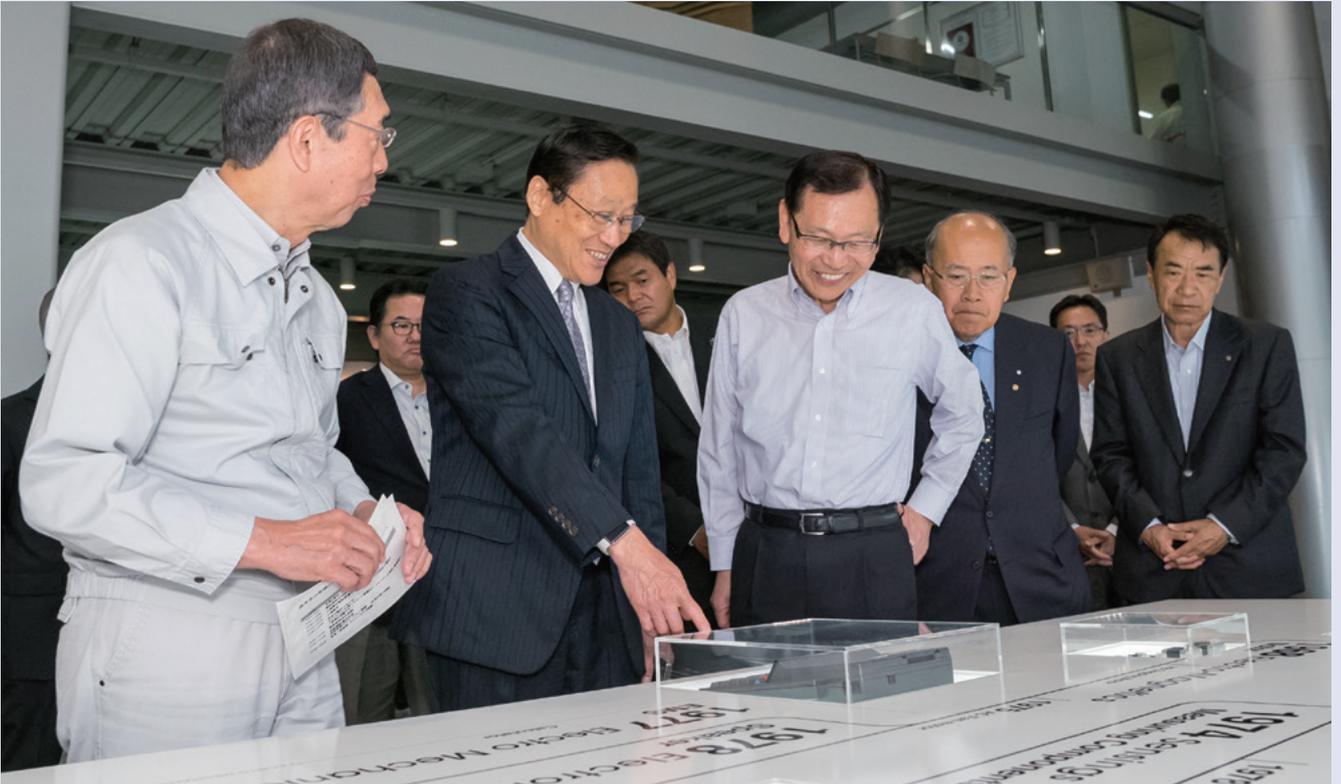


袋井市特命理事 兼 防災監
金原氏

に備えた計画を整備しておりますので、その中でスムーズな連携が取れるよう、今後協議させていただくと非常にありがたいです。

藤田 承知しました。当社としてはまず被災した従業員を最優先で受け入れたいと考えていますが、近隣の方にもセミナーホールや厚生棟を避難所として使っていただくなど、可能な限りの対応をさせていただきます。

原田氏 貴社の浜松工場では43%の従業員が袋井市



工場見学の様子

在住とのこと、それだけの方々を受け入れていただだけでも市の負担はずいぶん軽くなります。ぜひまた詳しくご相談させていただきます。



ミネベア 富田

富田 最後に、せっかくの機会です。当社からも2つほどご相談させていただきたい点があります。1つ目が、待機児童についてです。当社では多くの女性の技術者が活躍しておりまして、育児休業後、職場復帰のために子どもを預ける場所がないという

のは大きな課題となっています。当社も協力させていただきますので、一緒に改善を目指していければと思います。2つ目が、工場周辺の交通状況についてです。この付近には歩道が整備されていない所があったり、バスなどの公共交通機関がないことなどで、当社の従業員を含めて近隣の方々が、安全性や利便性に問題を抱えているように感じます。対策を検討していただくと大変うれしいです。

原田氏 分かりました。ご意見ありがとうございます。

藤田 できることとできないことがお互いにあるかと思しますので、まずは忌憚なく話し合えることが一番大事なのかもしれませんね。簡単にはいかないことばかりですが、ぜひ一緒に取り組んでいければ幸いです。

◇ おわりに

松田 本日は、貴重なご意見をいただき誠にありがとうございました。ミネベアのさまざまなCSR活動の根幹には社是「五つの心得」があり、その一つとして「地域社会に歓迎されなければならない」を掲げています。地域にいかに貢献していくかはわたしたちの重要なテーマであり、浜松工場においても「ミネベアはこの地域になくてはならない」存在となりますように、いっそうの努力を重ねてまいります。そのためにも、今回を機に皆様との更なるコミュニケーションを続けさせていただければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



上海工場



西岑工場

ミネベアグループの中心的な生産拠点である上海ミネベア。中国における事業成功のためには、ものづくりに真摯に取り組むことはもちろん、社である「五つの心得」を基本に、ステークホルダーの皆様との対話を事業に組み込むことが重要です。従業員が誇りを持ち、地域社会に歓迎される企業を目指し、20年以上にわたって地域に根ざして事業を行ってきた、上海ミネベアの取り組みを紹介します。

◇ ステークホルダーの期待に応える 事業活動を目指して

上海美蓓亚精密机电有限公司(以下、上海ミネベア)が担う、上海工場と西岑工場は、上海市青浦区にある淀山湖の湖畔に位置します。1994年の創業以来、中国の地で20年以上にわたってものづくりを行ってきました。上海ミネベアは、ボールベアリングやファンモーター、計測機器などの製品を生産しています。中国は当社グループにおける売上高の30%程度を占めており、その中核をなす両工場は重要拠点です。

上海ミネベアで総経理を務める竹下は「CSR(企業の社会的責任)は非常に重要です。現代においては、お客様も国も地域社会も当然CSRを求めています。つまり、世界で通用する企業として活躍するためには当然の活動だと考えています。そのため、当社グループの社是でありCSRの基本でもある『五つの心得』を中心にCSRに関する話を、さまざまな機会に従業員に伝えるようにしています」と話します。両工場ではこれまでも環境マネジメントシステムISO14001や労働安全衛生マネジメントシステムOHSAS18001などを取得するとともに、環境安全委員会や3R委員会、コンプライアンス推進委

員会などを整備してきました。また、従業員組織である工会*とも議論する場を設けたり、お取引先様にCSR調達のお願いや監査を実施するなど、CSRの取り組みを重ねてきました。

一方で、竹下は「ステークホルダーそれぞれから意見を伺い、さまざまな期待に最適な形で応えることが重要」とも話します。「CSRを実践する中で、ステークホルダーによっては意見が分かれるところがあるのも事実です。従業員一人ひとりですら考えが違います。そうした利害を調整し最善策を見つけるためにも、オープンに意見を言い合える環境をつくることが重要です」。竹下はさらに今後のCSR推進について、「これから特に強化していきたいのが、上海ミネベアと従業員、および上海ミネベアと地域社会の方とのかかわり方です。これまでも中国の方をできるだけ登用することで従業員とのコミュニケーションを円滑にしようと心掛けてきました。今後は体制を整え、対話できる場をさらに増やしていきたいですね」と意気込みを語ります。



上海美蓓亚精密机电有限公司
董事長・総経理
竹下 浩一

*工会:中国の法律で設立が求められる労働者の権利を保護するための従業員組織

▶ 従業員と対話を重ねる

上海ミネベアにおいて、重要なステークホルダーの一つが従業員です。これまで、従業員満足度の調査や、従業員組織の工会との対話を基本とした人事施策の推進など、従業員とのコミュニケーションを重視してきました。その対話の中心を担うのが、人事総務部の人事部門をまとめる呂と、工会代表の銭の二人です。「操業を始めて20年以上がたっていますので、従業員と経営陣の関係は良好です。6,000名近くの従業員の、すべての期待に応えることはできませんが、工会とうまく連携が取れており、問題が起きても協力することですぐに対応できる体制が整っています」と呂は語ります。

2015年には、工会と経営陣の情報交換を目的とした定例会議を本格スタートし、より連携を活発にさせています。工会代表の銭は「こうした会議が、会社の決定に対する理解度を高めたり、わたしたちの意見を伝えたりする場にもなります。従業員を尊重していることをより強く感じるようになりました」と取り組みを評価します。「こうした会議を通じて、お互いの立場に立って向き合える関係をさらに築いていきたい」と呂も会議への期待を述べます。



左:人事総務部 人事総監 呂青雲(QingYun LU)
右:工会 主席 銭英(Ying QIAN)

「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」というミネベアグループの目指す企業像に対して銭は、「公平に評価してもらっています。わたし自身高校を卒業以来、20年近く上海ミネベアに勤め、責任のある仕事もさせてもらっています。わたしのように20年近く勤める中国人従業員は500名近くおり、そのことが誇りを持てる会社であることを証明しているのではないのでしょうか」と言います。また、呂も「上海ミネベアは中国の中では先進的な規範を整えています。これからも、ただ法令を守るだけでなく、企業としての総合力を上げ、従業員がもっと誇りを持てる会社にしていきたいです」と意気込みます。

▶ Voice

現地の力を生かしたい



モールド製造部・プレス製造部
経理

尤 衛娟
(WeiJuan YOU)

わたしは、上海ミネベアに勤めて20年目になります。2000年からマネジャーの仕事をしており、現在では約700名の従業員を統括しています。わたしの部署では日本からのサポートだけに頼らず、現地の従業員からのさまざまなアイデアによって、自立した対応ができるように努めています。何でも日本のマザー工場に頼ってはいは、依存心を生むだけです。わたしたちの考えで行った自動化による生産性の向上施策は、グループのほかの国にも展開されています。マネジャーのわたしが率先してさまざまなことを試し、部署全体の技術の向上と自立心の強化をしていきたいです。

▶ Voice

女性の力を最大限発揮させていきます



工機部
副経理
陶 戴娟
(DaiJuan TAO)

わたしはファンモーター部品の金型および治具の製造部門でアシスタントマネジャーをしています。わたしの部署は設計や製造など技術に関連する仕事を中心です。職場は、男性が大半を占めますが、女性の繊細さが重要な職場でもあると感じています。男女双方の長所を生かし、互いに補い合えるよう女性もしっかりと育てていきたいと思っています。生産ラインは24時間稼働する大変な現場ですが、生産性を上げることで深夜に女性が働かなくてよい勤務体系にしました。今後も、生産性と技術力を向上させ、よりよい職場環境をつくっていききたいです。

地域環境と調和を図る

もう一つ上海ミネベアにとって重要なのが、地域社会と共生していくことです。上海ミネベアは上海市の重要な水源である淀山湖に隣接するため、環境保全への取り組みが欠かせません。近年の環境規制がこの取り組みに拍車をかけます。上海ミネベアでは、廃棄物の重量を削減するための乾燥機を自社で製造したり、エネルギー効率を高めるためにターボ冷凍機を導入するなどさまざまな環境活動を行っています。危険物管理に関しては政府や周辺企業が視察にくるなど、地域からモデル企業として評価をいただいています。

その環境活動を取り仕切るのが、環境安全委員会と3R委員会です。

環境安全委員会は、70名近くからなる委員会で、「環境管理・省資源」「安全衛生」「防災」「防犯」「化学物質」の5つのテーマに関して部会を設け、毎年計画を立て取り組みを実施しています。各事業部門から代表者が参加しており、現場の従業員にも周知・徹底できる

体制にしています。副委員長を務める封は「各部門と連携し、発生した問題の解決だけでなく、未然防止をするという大切な役割を担っています」と委員会の重要性を強調します。

3R委員会は、「廃棄物は宝の山」という考えにより2004年に発足しました。Reduce、

Reuse、Recycleの活動を進め環境負荷を減らしていくと同時に、廃棄物を再利用可能なものにし、処理業者に売却することで収益につなげる活動です。「始めた当初は従業員にごみの分別をお願いすることからスタートしました」と語るのは委員会の事務局も担当する資材部の葉。「最終的には、廃棄物を分析・評価して危険物の除去も実施し、信頼できる処理業者を選定することで、今では安定して運営できるようになりました」と話します。

上海ミネベアは、淀山湖の水質保全と同湖周辺の環境保護のため、工場排水ゼロシステムを導入し、排水を工場の外に一切出さない仕組みを確立しています。排水処理設備を管轄する施設部の諸は「特殊な設備の導入により、水を浄化して、工場内で再利用することで、排水ゼロを実現しています。浄水後の水質は政府の基準より厳しい数値を設定しており、その基準値を大幅にクリアするレベルで管理できています」と説明します。また、工場排水ゼロシステムの導入で、上海ミネベア全体の2015年度の水総使用量は526千 m^3 で、うち市水の利用は108千 m^3 と約21%にとどまっています。工場排水の再利用は361千 m^3 、雨水の再利用は56千 m^3 となっています。



資材部
副經理
葉暉(Hui YE)



副總經理
封蓉芳
(RongFang FENG)



施設部
經理
諸林(Lin ZHU)



排水処理施設



水質チェックの様子



ターボ冷凍機



朱家角人民病院の皆様、封副総経理と銭主席



被災地へ奇贈する物資収集の様子



朱家角人民病院でのボランティア風景

▶ 地域社会に受け入れられる企業になる

「地域社会に歓迎されなければならない」という考え方を「五つの心得」で掲げるミネベアグループにとって、工場の地域の方々に貢献することも重要な事業活動の一つです。上海ミネベアは、工会が中心となってさまざまな地域活動を行っています。例えば、中国文化保全のための活動や災害被災地への本・物資などの奇贈、高齢者の訪問です。

その中でも活発なのが朱家角人民病院への支援です。朱家角人民病院は政府の方針で、毎年障がい者と高齢者の無料健康診断を実施しています。多くの方が診断を受けるため、受診者が病院内を移動するためのサポートが足りないなどの悩みがありました。上海ミネベアでは朱家角人民病院にこれまでも従業員の健康診断を依頼していたという関係もあり、2013年から従業員ボランティアの派遣を開始しました。工会の銭は「ミ

ネベアグループの『五つの心得』を浸透させるよい機会だと考えています」と始めたきっかけを語ります。毎年20～30名程度が1週間にわたり参加します。事前にサポートのための指導も受けますが、「従業員にできることを」という考えのもと、体が不自由な受診者の車いすやお手洗いの補助を行っています。受診者が多く、人手が足りなかったこともあり、病院からも大変喜んでもらっています。

「今後も、わたしたちにできることで、社会が必要と考えていることを行っていきたい」と語る銭。また人事総務部の呂も「従業員が誇りを持てることにもつながるので、積極的に地域との交流を深めていきたい」と話します。

これからも上海ミネベアは「五つの心得」をもとに、ステークホルダーの皆様と対話を重ね、従業員が誇りを持ち、地域社会に歓迎される企業を目指していきます。

▶ Voice

お互いが高めあえる関係を築きたい



朱家角人民病院 副院長
項 晓萍
(XiaoPing XIANG)

上海ミネベアにはこれまでも雇用創出などの経済面だけでなく、環境保全の模範企業として青浦区に多く貢献してもらっていると思います。それだけでなく、企業の方がこうしたボランティア活動を行ってくれることはこの地域では珍しく、非常にありがたく感じています。患者さんもミネベアからの支援を受けたことで、地域の一員として受け入れてくれていると思えたとのことで、非常に喜んでいますが、口コミでこの活動が地域の評判になっています。

今後も、上海ミネベアはこの地区の企業の模範であってほしいと考える一方、病院として健康に役立てる企画をするなど、お互いが提供しあえる関係を築いていけたらと思います。

CSR推進活動の目標と実績

▶ 2015年度実績と2016年度および中期目標

		2015年度目標	2015年度実績		
マネジメント	CSRマネジメント	ISO26000の現状分析結果をもとに、グローバルでのCSR推進戦略策定 CSR	グローバルでのPDCAマネジメントを通じたCSR戦略の推進		
		国内外のCSRオフィサーおよびCSR担当のCSR啓発およびヒアリングを実施 CSR	<ul style="list-style-type: none"> ● 欧米中国のCSRオフィサーに対し、電話会議を通じたCSR啓発およびヒアリングを実施 ● 国内のCSRオフィサーに対し、広報誌を活用したCSR啓発を実施 		
	コーポレートガバナンス コンプライアンス リスクマネジメント	中国、東南アジアでコンプライアンスの現状を確認し、体制構築を進める コンプライアンス	中国、タイでコンプライアンスの現状を把握し、体制構築を推進		
		タイ、韓国に加え、中国でローカルマネージャーを対象としたコンプライアンス研修を実施 コンプライアンス	タイ、韓国でローカルマネージャーを対象としたコンプライアンス研修を実施		
コンプライアンス意識調査の実施 コンプライアンス		ミネベアに勤務する日本人従業員全員に対して、コンプライアンス意識調査を実施			
	カンボジア、中国（蘇州、珠海）、マレーシアでのBCP基本計画策定 総務	<ul style="list-style-type: none"> ● 蘇州、珠海でBCP基本計画策定 ● カンボジアでBCP行動計画策定完了 ● マレーシアでBCP基本計画策定に着手 			
	国内事業所、タイなど各拠点におけるBCP訓練の推進 総務	<ul style="list-style-type: none"> ● 軽井沢でのBCP訓練の内容充実 ● タイで洪水対策のシミュレーション訓練を実施 			
社会	お客様とのかかわり	お客様の品質要求のサプライヤーへの展開のためのサプライヤー向け品証協定書の整備 品質	サプライヤー向け品質保証協定書を整備し、車載用で展開		
		タイ製の計測製品、ロッドエンド製品、PMA製品、PMモーター製品、マイクロアクチュエーター製品と上海製のファンモーター製品への統一バーコードラベルの導入 物流	タイ製のロッドエンド製品に統一バーコードラベルを導入		
		韓国およびマレーシアでのAEO認定取得の推進 物流	マレーシアでAEO認定取得の申請を実施		
	従業員とのかかわり	人権尊重に対する教育の継続的強化 人材開発	階層別研修におけるハラスメント教育や海外赴任前研修における人権尊重に関する教育を実施		
		グローバル展開に対応した人材育成および活用の継続的強化 人材開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代リーダー選抜研修の実施 ● 次世代リーダー選抜研修参加者を対象とした戦略的ローテーションの推進 ● タイ、中国でローカル幹部研修を実施 		
		女性活躍の推進 人材開発	管理職、主任補層に、意識改革、役割再認識のための研修を実施		
		ワークライフバランスに関する取り組みの継続的推進 人事	育児短時間勤務取得可能期間を1年間延長		
		障がい者雇用の法定雇用率達成と雇用維持 人事	障がい者雇用率1.84%（2015年6月時点）		
		メンタルヘルスへの対応推進 人事	ストレスチェックの導入準備		
	地域社会・国際社会とのかかわり	国内外の拠点における地域との対話促進 CSR	軽井沢工場での年2回の定期懇談会、米子工場での定期懇談会を実施		
お取引先様とのかかわり	上海、蘇州、珠海の主要お取引先様に対し、CSR調達推進自己チェックシートを送付、回収し、現状を把握 資材	上海、西岑、蘇州、珠海の主要お取引先様に対し、CSR調達推進自己チェックシートを送付、回収し、現状を把握			
株主の皆様とのかかわり	事業計画の進捗および施策に関する積極的な情報開示の継続的推進 IR	株主総会、年2回の報告書送付、ウェブサイトなどを通じ、中期事業計画および施策の情報開示を推進			
	国内外の投資家との積極的なコミュニケーションの継続的推進 IR	合計年4回の機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会および決算説明電話会議、年1回の欧米・アジアでの投資家訪問などを推進			
環境	タイのパンフ工場でISO14001を取得 環境	タイのパンフ工場でISO14001を取得			
	2010年度を基準年として、CO ₂ 排出量を生産高原単位で5%削減 環境	2010年度を基準年として、CO ₂ 排出量を生産高原単位で約55%削減（排出量実績は、515,172トン）			
	全世界のミネベアグループの最終埋立処分量を生産高原単位で2014年度比10%削減 環境	最終埋立処分量を生産高原単位で2014年度比約17%削減（最終埋立処分量実績は、5,373トン）			
	CDPへの回答を実施 環境	環境グループとして、CDPへの回答を社内検討			
	海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包仕様の推進、段ボールのバラタイズ荷姿化の推進、パレットサイズの集約化、パレットの強度対策（ファンモーター製品）による梱包改善の継続的推進 物流	欧州向けPMモーターで、海上コンテナの積載効率向上に向けた梱包仕様を推進。HBモーター、PMモーターで、段ボールのバラタイズ荷姿化を推進。ファンモーター製品で、パレットサイズ集約化、強度対策完了			



▶ CSR推進活動の目標と実績

ミネベアグループでは、CSRの取り組みを進める上で、PDCA(Plan・Do・Check・Action)のサイクルを適切に回して

マネジメントしていくことが重要であると考え、CSR目標を定め取り組んでいます。また、CSR推進活動を計画的に進めていくため、2017年度を目指した中期目標を策定しています。

評価	2016年度目標	中期目標(2017年度めど)
△	<ul style="list-style-type: none"> 海外拠点とのコミュニケーションを通じた、グローバルでのPDCAマネジメントの推進 CSR 国内外のCSRオフィサーおよびCSR副担当のCSR啓発およびヒアリングを実施 CSR 	<p>ステークホルダーの期待・要請理解を通じたCSR重点課題をベースとした、CSRマネジメントの推進 CSR</p>
○	<ul style="list-style-type: none"> 中国、東南アジアでコンプライアンスの体制構築を継続的に進める コンプライアンス 中国でローカルマネージャーを対象としたコンプライアンス研修を実施 コンプライアンス ミネベアに勤務する日本人従業員全員に対して、コンプライアンスに関するeラーニングを実施 コンプライアンス タイでのBCP基本計画策定、マレーシアでのBCP基本計画および行動計画策定、上海、蘇州、珠海でのBCP行動計画策定 総務 国内事業所、タイなどにおけるBCP訓練の推進 総務 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルコンプライアンス体制の構築・強化 コンプライアンス 世界主要拠点でのBCP策定と訓練等を通しての定着 総務
○	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー向け品質保証協定書の継続展開 品質 ISO9001:2015への移行に向けた準備 品質 タイ製の計測製品、PMA製品、PMモーター製品、マイクロアクチュエーター製品に統一バーコードラベルを導入 物流 ベアリングへの統一バーコードラベルの導入 物流 韓国でのAEO認定取得の推進 物流 	<ul style="list-style-type: none"> ISO9001:2015への移行と品質マネジメントシステムのさらなるレベルアップ 品質 全製品への統一バーコードラベルの導入推進 物流 AEO認定の継続的取得推進 物流 物流品質向上のための見える化の推進 物流
△	<ul style="list-style-type: none"> 人権尊重に対する教育の継続的強化 人材開発 グローバル展開に対応した人材育成および活用の継続的強化 人材開発 <ul style="list-style-type: none"> 次世代リーダー育成の強化 海外ローカル幹部リーダーの育成 女性活躍の継続的推進 人材開発 ワークライフバランスに関する取り組みの継続的推進 人事 障がい者雇用の法定雇用率達成と雇用維持 人事 メンタルヘルスへの対応推進 人事 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルでの事業の拡大、発展を積極的に推進するための人材開発強化 人材開発 女性管理職の割合の増加(2021年に2016年の2倍を目標とする) 人材開発 社会的要請を積極的にくみ取りつつ、従業員が生き生きと働くための施策推進 人事
○	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の拠点における地域との対話促進 CSR 	<p>国内外でのCSR浸透活動の継続的実施 CSR</p>
○	<p>マレーシア、シンガポールのお取引先様を対象に、「ミネベアグループCSR調達推進自己チェックシート」を使ったCSR推進状況の確認 資材</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ミネベアグループ CSR 調達ガイドライン」の継続的な啓蒙活動。必要に応じて見直しの検討、実施 資材 「ミネベアグループCSR調達推進自己チェックシート」の実施後に、取引を開始したお取引先様の中から、日本、タイ、中国の工場を対象に必要な「自己チェックシート」によるCSR推進状況を確認 資材 ミツミ電機株式会社との経営統合を前提として、両社のCSR調達活動のすり合わせと新たな方針、目標、活動等について検討の実施 資材
○	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画の進捗および施策に関する積極的な情報開示の継続的推進 IR 国内外の投資家との積極的なコミュニケーションの継続的推進 IR 	<p>より多くの株主・投資家の皆様にミネベアへの理解を深めていただけるよう、積極的な情報開示とコミュニケーションの継続 IR</p>
○	<ul style="list-style-type: none"> ISO14001:2015に基づく運用を開始 環境 2020年度までのCO₂排出削減目標を設定 環境 2015年度を基準年として、CO₂排出量を生産高原単位で1%削減 環境 2015年度を基準年として、廃棄物排出量を生産高原単位で1%削減 環境 	<ul style="list-style-type: none"> 2015年度を基準年として、CO₂を原単位ベースで継続的に削減 環境 2015年度を基準年として、廃棄物排出量を原単位ベースで継続的に削減 環境
○	<p>パレタイズ化のさらなる推進 物流</p>	<p>パレタイズ化を中心とした梱包改善のさらなる展開 物流</p>

ミネベアグループのCSR

基本的な考え方

ミネベアグループでは、企業の使命とは法令の遵守だけでなく、企業倫理に則した公正かつ、適切な事業運営を通じて、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献することであると考えています。この使命を果たすため、当社グループでは、社是として位置付けた「五つの心得」と、これを基本とした「ミネベアグループのCSR基本方針」および「ミネベアグループのCSR実践に向けた活動方針」を策定し、取り組みを進めています。

2015年4月に、「ミネベアグループのCSR実践に向けた活動方針」を改定しました。製品を通じて社会にプラスとなる価値をつくるという考えに基づき、「製品を通じた社会価値の創造」の項目を追加しています。

また、2012年に参加を表明した国連グローバル・コンパクトの10原則についても重要な考えと位置付け実践に努めています。

五つの心得

- ◎ 従業員が誇りを持てる会社でなければならない
- ◎ お客様の信頼を得なければならない
- ◎ 株主の皆様のご期待に応えなければならない
- ◎ 地域社会に歓迎されなければならない
- ◎ 国際社会の発展に貢献しなければならない

ミネベアグループのCSR基本方針

ミネベアグループは、社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費の少ない製品を安定的に供給し、広く普及させる」ことを通して、地球環境および人類の持続可能な発展に貢献します。

ミネベアグループのCSR実践に向けた活動方針

1 「五つの心得」と「行動規範」

CSR活動の推進に当たっては、「五つの心得」を基本として、適切な組織統治のもと、ミネベアグループ「行動規範」を遵守していきます。

3 継続的改善と意識向上

ミネベアグループの社会的責任、取り組むべき重要課題を理解した上で達成すべき目標を掲げ、実行とレビューを繰り返して、CSR活動を継続的に改善していきます。また、こうした活動を通して、従業員一人一人のCSRについての意識向上を図っていきます。

2 製品を通じた社会価値の創造

社会を支える精密部品メーカーとして、「信頼性が高く、エネルギー消費を減らす製品」を積極的に開発し、広く普及させます。

4 ステークホルダーとの対話

ステークホルダー（従業員、お客様、株主の皆様、地域社会、国際社会、お取引先様、環境など）との積極的な対話を通して、その期待・要請に応えるとともに、企業活動の透明性向上と説明責任を果たしていきます。

▶ ミネベアグループのステークホルダー



▶ 国連グローバル・コンパクトの支持



Network Japan
WE SUPPORT



▶ ミネベアグループのステークホルダー

ミネベアグループは、社是の「五つの心得」で示されている「従業員」「お客様」「株主の皆様」「地域社会」「国際社会」のほかに、「お取引先様」およびわたしたちの社会を支えている「環境」をステークホルダーとして分類しています。当社グループでは、CSR活動に取り組む上で、各ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、その期待に応えることが欠かせないと考えています。

▶ CSR推進体制

ミネベアグループは、「ミネベアグループのCSR基本方針」および「ミネベアグループのCSR実践に向けた活動方針」を基に、CSR活動を推進するために、2010年よりCSR推進室を設置しています。

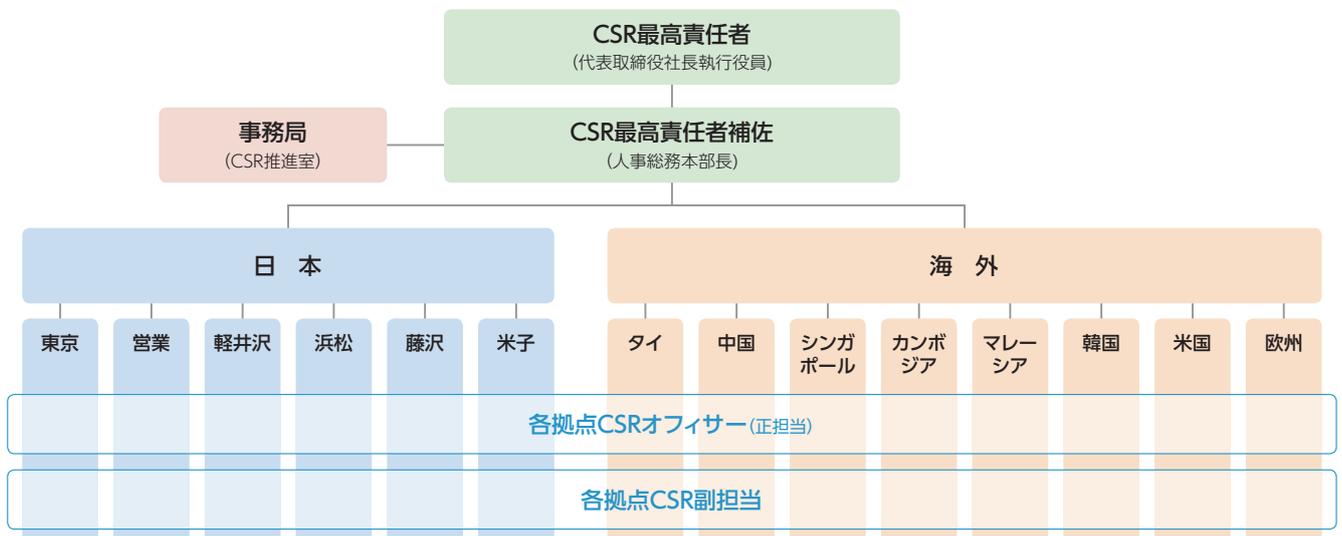
また、2014年4月にはCSR体制のさらなる強化と社内推進活動の発展を目的として、最高責任者を社長執行役員、最高責任者補佐を人事総務本部長とするCSR推進体制を構築しました。各拠点にCSR活動の啓発と現状把握を行うCSRオフィサー（正担当）、CSR副担当を設置しています。

引き続きCSR活動を推進するため、グループ全体での体制の強化に取り組んでいきます。

▶ CSR活動の現状整理

ミネベアでは、社会的責任に関する国際規格であるISO 26000に基づき、「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画及びコ

▶ CSR推進体制図



各拠点に、CSRオフィサー（正担当）を配置し、その下部組織として、CSR副担当を複数名配置

コミュニティの発展」の7つのテーマと「社会的責任の認識および組織全体への統合」について、当社の取り組み実施状況と当社への重要度を確認し、優先的に取り組みが求められる課題について洗い出しを行っています。2013年度に国内拠点における現状分析を実施し、2014年度には、これを海外拠点にまで広げ、CSR推進における課題の分析を行いました。

分析の結果、世界各拠点と本社とが連携したCSRを体系的に進めることや、拠点間で先進事例を共有していく必要性を確認しました。今後は、現状分析の範囲を欧米に広げ、CSRオフィサーとコミュニケーションしながら、PDCAマネジメントを推進していきます。

▶ 社内でのCSR浸透活動

ミネベアは、CSR推進活動の目標に対する、各部門の実施担当者を集めたCSR勉強会を2012年度より実施しています。

2015年度は、欧米と中国のCSRオフィサーを対象に、CSRに関する説明およびヒアリングを実施し、各拠点における取り組みの進捗状況を確認しました。また、年2回発行される社内報においてもCSRの啓発を行っています。

▶ 今後の課題・目標

グローバルに事業を展開するミネベアグループとして、ISO26000などの国際的な基準にのっとったCSRの推進を目指し、海外拠点を含めたグループ全体でのCSR戦略の策定やマネジメント推進、CSRの浸透活動を進めていきます。

コンプライアンス

▶ 基本的な考え方

ミネベアグループは、コンプライアンスの実践がCSR推進において欠くことのできない要素であるという認識の下、当社グループの役員、従業員が適切な行動を選択する際の規範となる「ミネベアグループ行動規範」「ミネベアグループ役員・従業員行動指針」を定め、公正かつ適正で、透明度の高い経営に努めています。



「ミネベアグループ行動規範」および「ミネベアグループ役員・従業員行動指針」の詳細は、ミネベアグループウェブサイトをご参照ください。
<http://www.minebea.co.jp/corp/company/aboutus/Conduct/declaration/index.html>

▶ コンプライアンス推進体制

ミネベアグループでは、社長執行役員をコンプライアンスの最高責任者とし、直属の組織であるコンプライアンス委員会を年2回開催し、行動規範の運用、行動規範に対する重大な違反事例発生時の緊急対策などについて迅速に意思決定を行っています。また、コンプライアンス委員会の事務局をコンプライアンス推進室が担当し、コンプライアンス推進のための諸施策を実施しています。

また、各拠点にコンプライアンスオフィサーを設置し、グループでのマネジメントの強化を図っています。2015年度はタイ・中国における現状把握と連携強化に向けた取り組みを実施しました。

▶ コンプライアンス体制図



▶ コンプライアンス意識調査

ミネベアでは、従業員のコンプライアンスに対する認識を確認するため、コンプライアンス意識調査を隔年で実施しています。2015年度の調査は、2013年度に引き続き2回目の実施となり、国内外の日本人従業員3,839名から回答を集めました。意識調査の結果、コンプライアンスへの関心がポジティブに改善していることを確認しています。今後は調査結果を受けた研修の開発などを進めていきます。

▶ コンプライアンス教育

ミネベアグループでは、従業員のコンプライアンスへの理解を深めるため、階層別研修時のコンプライアンス教育を実施しており、2015年度は150名が受講しました。さらに、独占禁止法(競争法)遵守に関する定期的な研修として、国内外の従業員750名に対し、講義を実施しています。また、贈収賄防止に関する研修として、社長以下執行役員42名に対し、社外弁護士を講師に招いた講義を実施しました。

海外においては、韓国でローカル従業員を対象としたコンプライアンス研修を実施し、39名の従業員が受講しています。

▶ 内部通報制度

ミネベアグループでは、従業員一人ひとりが自らの行動や意思決定がミネベアグループ行動規範に違反するかどうか迷った場合、または本行動規範に違反する疑いのある行為を発見した場合に利用できる相談窓口を社内と社外にそれぞれ設置しています。受け付けたすべての通報については、事実確認の上、適切に対応しています。

▶ 今後のコンプライアンス推進について

従業員一人ひとりがコンプライアンスの意識を持って、事業活動に取り組む企業風土を定着させるために、従業員の意識と知識の充実をより一層深めていく必要があると考えています。今後も教育研修の充実や相談窓口の周知徹底とともに、海外を含めたグループ全体でのコンプライアンス推進体制の強化を進めるべく、各国の連携強化を進めていきます。

リスクマネジメント



▶ 基本的な考え方

ミネベアグループでは、リスクが顕在化した場合、その対応によっては企業経営の根幹に影響を及ぼす恐れがあるとして、危機管理は極めて重要な施策であると考えています。危機管理体制や、事前の予防対策、緊急事態発生時の対応などについて定めた「ミネベアグループ危機管理基本規程」を制定し、想定されるさまざまなリスクに備えています。

▶ 危機管理体制

ミネベアグループでは、社長執行役員を危機管理の最高責任者とし、「危機管理委員会」にて危機管理における重要な意思決定を行っています。予防的な取り組みとして、事前に具体的なリスクを想定、分類し、継続的に監視しています。万が一危機事案が発生した場合には、事態の緊急度からレベルを1～3に分類し、危機管理委員会での協議を経て、緊急対策本部や現地対策本部の設置を行い、事態への迅速かつ確かな対応を行います。また、危機管理事案の内容により、当該事案の担当部署として主管部が任命され、当該事案についての危機予防対策の立案や実施を行う体制を整えています。

▶ 情報セキュリティ

情報セキュリティ体制

ミネベアグループでは、情報資産を守ることは信頼関係を築く上での責務と考え、「ミネベア及びミネベアグループ情報の保護(情報セキュリティ)に関する基本方針」を定め、その徹底に努めています。

また、専務執行役員を長とする「情報セキュリティ委員会」を設け、各国ごとの推進体制として「情報セキュリティタスクフォース」を編成しています。

情報セキュリティ教育

ミネベアグループでは、従業員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、情報セキュリティ教育を実施しています。年1回の情報セキュリティに関する説明会の実施、新入社員や中途採用社員に対する入社時の教育のほか、情報セキュ

リティタスクフォースによる個別指導を実施しています。2015年度は1年を通じて、情報セキュリティに関する説明会を実施し、派遣社員、協力会社従業員を含む12,901名の従業員が参加しました。

今後も教育を通じて、情報セキュリティに関する禁止事項の確認や、セキュリティ事故につながりやすい注意点などを共有し、従業員の意識向上に役立てていきます。

個人情報保護の取り組み

ミネベアグループで保有する個人情報については、「個人情報保護方針」にのっとり適切に管理するほか、その利用目的を明確にし、利用目的の範囲内での取り扱いを徹底しています。

▶ BCPの取り組み

ミネベアグループでは、大規模災害、新興感染症、テロなどの緊急事態発生時に、従業員やその家族の安全を確保するとともに、世界トップシェアの製品を持つ部品メーカーとして、お客様への供給責任を果たすことが当社グループの社会的責任であると考え、国内外の主要拠点においてBCP(事業継続計画)を策定し運用を開始しています。

BCPは、拠点ごとに想定されるリスクシナリオを分析し、そのリスクレベルに応じて決定しています。具体的な対策として、緊急マニュアルの整備、工場の耐震補強、食料の備蓄、自衛消防隊の整備、避難訓練、安否確認システムの導入などを実施しています。

2015年度は中国の蘇州、珠海工場にてBCPの基本計画を策定したほか、カンボジア工場にてBCP行動計画の策定を完了しました。また、軽井沢工場で地震を想定したBCPの訓練を定期的に行っているほか、タイの各工場において洪水を想定した訓練を実施しています。

▶ 今後の課題・目標

引き続き、さまざまなリスクに対応できるBCP体制の確立、定着を目指して取り組みを進めてまいります。

お客様とのかかわり

▶ 基本的な考え方

ミネベアグループでは、社是である「五つの心得」に基づいた「ミネベアグループ品質方針」を掲げ、開発・製造・販売する製品の品質に万全を期し、世界のお客様の信頼に応えるとともに、限りある資源を無駄なく効率的に使用することによって、国際社会の発展に貢献できる「総合精密部品メーカー」となることを目指しています。

そのために品質マネジメントシステムを構築、実施し、その有効性を常に確認するとともに、継続的な改善に努めています。

▶ 品質マネジメント

品質マネジメント体制

ミネベアグループは、グループ全体を対象とする「品質マネジメント管理規程」を制定し、製品、サービスの安全性確保と事故の未然防止に取り組んでいます。品質マネジメントシステムにおける最高責任者を社長執行役員とし、その諮問機関として「品質マネジメント委員会」を設置、またその下位組織として各事業部を代表する品質保証実務責任者による「グループ品質保証責任者会議」にて、定期的に個別の品質課題の情報共有や、同様の問題について再発防止に取り組

んでいます。また、「グループ品質管理部」が品質マネジメント委員会およびグループ品質保証責任者会議の事務局として、各事業部に対し品質マネジメントの支援・指導などを行っています。

さらに、2013年度に発足した「グループ安全規格連絡会」では、電気用品安全法(日本)への対応や、世界各地の安全規格情報の共有・展開を行い、対応を強化しています。

リスクアセスメント

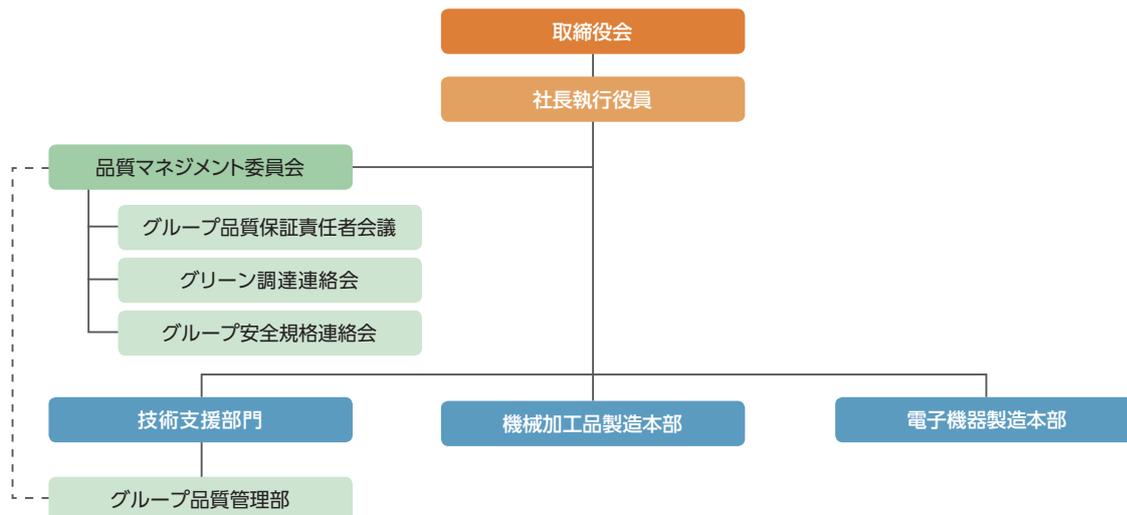
ミネベアグループの製品が使われる最終製品の中でも、万が一問題が発生した際に、社会に与える影響が大きい製品として、医療用、車載、航空の3分野については社内標準にのっとり、リスクアセスメントを実施しています。このアセスメントは、グループ品質管理部と各事業部が協働で実施し、設計・製造でのリスクがある場合には、そのリスクの低減を推進しています。

▶ 品質向上の取り組み

お取引先様向け品質保証協定書の整備

ミネベアグループでは、サプライチェーン全体でお客様からの品質要求に応えるため、お取引先様との間で取引基

▶ 品質マネジメント体制



※グループ品質保証責任者会議、グリーン調達連絡会、グループ安全規格連絡会は、製造本部および各事業部からの選任者で構成しています。また、グループ品質管理部は、品質マネジメント委員会および上記の各委員会の事務局を担当しています。



本契約のほか、品質保証協定書を締結しています。特にリスクの高い車載向け製品に関しては、品質マニュアル(品質要求仕様書)を含めた対応を行っており、今後は医療用・航空等、車載製品同様にリスクの高い製品に対しても順次展開していきます。

品質マネジメントシステム認証の取得推進

ミネベアグループでは、各事業所において必要な品質マネジメントシステム(QMS)規格の認証を取得しています。さらに今後の新製品に必要となる規格についても、順次認証取得を進めています。また、グループ品質管理部で内部監査員養成研修を開催し、内部監査員を継続的に養成、力量の維持を行っています。

今後は、2015年9月に改訂されたISO9001への移行に向け、各事業所にて準備を進めてまいります。

QC検定試験への対応

ミネベアグループでは従業員個々の品質評価・管理能力、改善能力の向上が、ひいては当社グループの製品品質の向上につながるとの考えから、2008年9月より一般財団法人日本規格協会および一般財団法人日本科学技術連盟が主催、実施している品質管理検定(QC検定)の資格取得を推進しています。従業員には受検費用の支給のほか、品質管理知識向上のために、教材を共有するデータベースより取得できるようにし、事前講習会も年2回実施しています。2015年度も多くの合格者を出しており、グループ累計で検定に合格している従業員(在籍者)は548名になりました。

AEO取得推進について

ミネベアグループでは、貿易や物流を適正かつ効率的に行うため、物流管理の強化、改善を行っています。この一環として、AEO(Authorized Economic Operator)制度の認定取得を進めています。2015年度は新たにマレーシアで申請し、2016年度中に認定取得できる予定です。今後は韓国での取得を進めていく予定です。

銘番ラベルとバーコードの統一化

ミネベアグループでは、製品の誤配送防止と確認作業の効率化のため、銘番ラベルとバーコードの統一化による物流管理を実施しています。2013年度に国内生産製品につ

いてシステムの運用を開始し、2014年度から海外での展開を実施しています。2015年度は、タイ製のロッドエンド製品での運用を開始しました。引き続き全製品に展開するため対応を進めています。

▶製品に関する情報開示

ミネベアグループが提供する製品は、消費者が手にする最終製品の中に組み込まれている部品がほとんどです。そのため、安全性情報はお客様のご要求に基づき提供しています。また、含有化学物質情報もお客様のご要求に基づき、お取引先様より入手した含有化学物質情報を基に伝達しています。

▶お客様とのコミュニケーション

お客様満足度調査

ミネベアグループでは、各事業部が主体となってお客様満足度調査を実施しています。その評価結果は各事業部の営業部門および開発部門にフィードバックされます。お客様から一定の基準を下回る評価をいただいた場合には、部門横断での改善を検討、実施しています。

▶品質問題への対応

ミネベアグループの製品、サービスにおいて、万が一重大な品質問題が発生した場合には、「品質マネジメント管理規程」にのっとり、必要な対応を決定しています。

▶今後の課題・目標

今後もさらなる品質向上に向けて取り組みを強化します。具体的にはリスクアセスメントの実施や、ISO9001(2015年版)への移行の対応に取り組んでいきます。

また、物流面については、海外における統一バーコードラベルの導入、認定制度取得の推進を通じた物流管理の強化に取り組んでいきます。

従業員とのかかわり

基本的な考え方

ミネベアグループは、創業以来、従業員を最も重要な財産と位置付け、「五つの心得」に「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と定めています。当社グループのすべての従業員が健康で、安全に働くことができ、一人ひとりがその能力を十分に発揮できるよう、職場環境の整備、向上に努めています。

従業員数(グループ)

(2016年3月時点)

	従業員	日本人海外駐在員	合計
日本	3,600名	—	3,600名
北米	1,646名	26名	1,672名
欧州	1,873名	31名	1,904名
アジア圏	54,910名	394名	55,304名
合計	62,029名	451名	62,480名

勤続状況(単体)

(2015年度)

平均勤続年数	平均年齢	退職者	離職率
17年6カ月	43歳9カ月	118名	3.2%

時間外労働データ(単体)

(2015年4月~2016年3月の平均値)

一人当たりの平均時間外労働時間	8.11時間/月
一人当たりの平均時間外労働手当	18,123円/月

多様な人材の活用

グローバルに事業展開するミネベアグループにとって、人材の多様性を前提とした人材力の強化が重要であると考えています。性別や年齢、国籍、障がいの有無などにかかわらず、多様な人材が能力を最大限に発揮できる環境づくりに努めています。

女性活躍の推進

ミネベアグループは、多様な人材に活躍していただくことにより、新たな価値観や競争力を生みつつ、持続的に発展する会社となることを重要な経営戦略の一つと位置付けています。

特に女性活躍推進のために、女性が安心して働ける環境を整備するなどの取り組みを進めており、管理職候補となる女性従業員を増やし、かつ管理職として活躍できる雇用環境の整備を行うための行動計画を2016年3月に策定しました。行動計画では2021年までに女性管理職の割合を

2016年比で2倍にすることを定めています。(2016年3月実績:1.2%)

また、2015年度は、リーダーシップスキルを中心に管理職に必要な能力向上を目的として、主任補と管理職それぞれに対して「リーダーシップの基本と実践研修」および「リーダーシップワークショップ」を実施しました。



「行動計画」の詳細は、ミネベアグループウェブサイトをご参照ください。

<http://www.minebea.co.jp/corp/environment/sociality/employees/2016/index.html>

グローバル人材の登用

ミネベアグループでは、グローバル展開に対応した人材育成および活用の強化に取り組んでいます。取り組みの一環として、日本で学ぶ外国人留学生を積極的に採用しています。2016年4月入社の新入社員111名のうち、5名の外国人を採用しました。

また、アメリカでの日本人留学生採用や中国での中国人新卒本社採用など、海外での採用活動も積極的に進めており、2015年10月に中国人3名、2016年4月に日本人留学生2名の新卒社員を海外で本社採用しました。

障がい者雇用の取り組み

ミネベアグループでは、障がい者の雇用を積極的に進めています。2015年6月時点での雇用率は1.84%となりました。今後、法定雇用率(2.0%)を目指してさらに取り組みを強化していきます。

また、障がいの有無にかかわらずすべての従業員がやりがいを持って働けるよう、職場によっては専門知識のある従業員が指導するなど、職場環境にも配慮した取り組みに努めています。

障がい者雇用率の推移(単体)

(単位:%)





▶ 人材育成

ミネベアグループでは、「ものづくりへのこだわり」「グローバル志向」「情熱・自ら考え行動する主体性」を持った従業員を求める人材像とし、その育成に取り組んでいます。人材育成の専任部署として人材開発部を設けるとともに、階層別の集合研修や、専門知識の取得、スキル強化を目的とした研修の企画運営、さらにはOJT教育などを実施しています。

米国ビジネススクールへの従業員派遣

ミネベアでは、次世代リーダーを中長期的な視野で育成することを目的に、米国コロンビア大学ビジネススクールの「日本経済経営研究所」に立候補により従業員を選抜し、客員研究員として派遣しています。この10カ月間に及ぶ社費留学では、多様なバックグラウンドの学生や研究員と交流し、マネジメントについて学ぶ機会が得られます。

▶ Voice

留学を終えて



営業部門製品販売統括部
エアームパー統括部
佐藤 邦喜

2015年9月より10カ月間、会社よりコロンビア大学ビジネススクールへ客員研究員として留学の機会をいただきました。留学中は希望する選択授業や、ニューヨーク国連会議における各国代表の講演、コロンビアビジネススクール卒業生による講義などを聴講することができました。世界で起きている事例について、現場に一番近い代表者の言葉を聞くこの

体験は今までに経験のないことであり、コロンビア大学ならではの貴重な体験となりました。

期間中に実務から離れることへの不安がりましたが、10カ月を終えたあと得られた経験は何事にも代えられないモノとなりました。この知識や体験を今後の営業業務に生かし、会社へ貢献していきます。

グローバル人材の育成

ミネベアグループはグローバルな人材育成を進めることに積極的に取り組んでいます。2015年度は海外赴任前研修を計19回実施し、計82名が参加したほか、海外駐在の準備支援として英語学習機会を提供するなど取り組みを強化しています。

また、海外駐在期間は5年間の基準としたガイドラインに従い、多くの従業員がグローバルに活躍する機会を得られるよう配慮しています。

海外のローカルスタッフに対しては、経営の現地化を目指し各法人での研修プログラムに基づいた研修を実施しているほか、研修生として日本の工場で受け入れ、技術やものづくりのノウハウを伝承しています。特に海外ローカルスタッフの中でも、幹部クラスの従業員に対して、グローバルで活躍できる人材の育成を目的とした「海外ローカル幹部リーダーシップ研修」を実施し、日本人に限らず、広く当社グループの従業員がグローバルで活躍できる体制強化に向けて取り組んでいます。

▶ 働きやすい職場環境への取り組み

多様な働き方の推進

ミネベアグループは従業員のワークライフバランスに配慮することが、従業員のやりがいや充実感につながる、重要な課題であると考えています。そのため、出産・育児、介護などのさまざまなライフイベントに柔軟に対応できる制度や、従業員がリフレッシュを図れるよう、「入社30年以上永年勤続者の旅行招待制度」を設けています。

2015年度には、育児短時間勤務の取得可能期間を1年間延長したほか、休職期間を6カ月間から1年間へと変更するなど、従業員が働き方を柔軟に選択できるよう、制度の充実化を進めています。

▶ 主な福利厚生制度と利用者数(国内グループ) (2015年度)

制度名	内容	延べ利用者数
育児休業制度	育児休業および育児短時間勤務の制度	44名
配偶者出産休暇制度	配偶者の出産時に取得可能な休暇制度(最大2日間)	37名
介護休業制度	介護休業および介護短時間勤務の制度	0名
入社30年以上永年勤続者の旅行招待制度	勤続30年の従業員と家族への旅行券贈呈	105名

労使関係

ミネベアグループでは、「ミネベアグループ行動規範」に示すように、結社の自由を認め、労働環境や労働条件といった課題について、定期的に労使懇談会を行うなど労働組合や従業員代表などと積極的にコミュニケーションを図り、良好な労使関係を築いています。

従業員とのかかわり

▶ 公正な評価

ミネベアグループでは、従業員一人ひとりの能力と実績を、公平性、公正性に最大限配慮した上で適正に評価し、処遇や報酬に反映させています。2014年度に人事考課制度の客観性を高めるために見直しを行っており、能力や経験などの昇格基準を新たに定めています。同時に新制度の説明会を実施し、制度の透明性向上に取り組んでいます。

今後も、意欲ある従業員が能力を十分発揮できる、そして働きがいを感じられる職場環境となるよう、労働環境や雇用構造などの変化にも柔軟に対応できる人事施策を実施していきます。

▶ 人権の尊重

ミネベアグループでは、人種、年齢、性別、国籍、宗教などによる不当な差別を禁止しています。従業員に対しては、新入社員研修において「ミネベアグループ役員・従業員行動指針」を用いた研修を実施しているほか、異文化の地域へ赴任となる従業員に行う赴任前研修や、各階層別研修の中でハラスメント防止に関する教育を実施しています。さらに、内部通報制度ならびに相談窓口を設けることで、人権侵害防止に取り組んでいます。

▶ 安全衛生管理

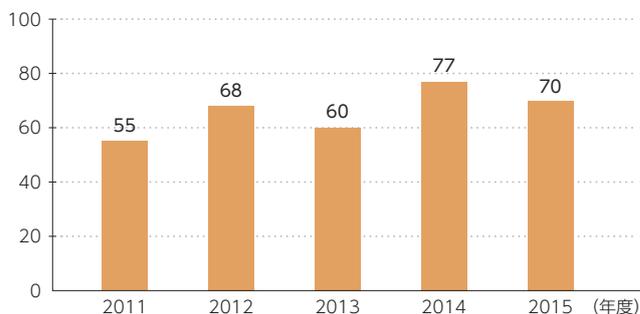
ミネベアグループでは、製品・サービスの質、生産の一貫性、および従業員のモラル向上は、安全で衛生的な職場環境において実現すると考えています。

各工場では、安全作業や衛生などの各部会からなる安全衛生委員会を設置しています。安全衛生委員会は定期的に開催し、各部会の目標に対する活動結果を共有しています。また、当社グループの量産拠点であるタイ、中国、シンガポールの主要工場ではOHSAS18001の認証を取得しており、新たにマレーシアでも取得しました。

万が一、火災、労災、交通事故などの事故が発生した場合には、安全管理責任者を中心に原因の把握や適切な対応が取られるとともに、それらの情報を全世界の全事業所と共有し、類似事故の再発防止に役立てています。

▶ 労働災害発生件数の推移(グループ)

(単位:件数)



健康管理の促進

ミネベアグループでは定期的に健康診断や健康相談の実施、時間外労働抑制に対する通知を行うほか、産業医が定期的に巡視するなど、各国の関連法規や各事業所の実情に合わせて、従業員の健康維持、向上に取り組んでいます。

特に、近年社会的関心が高まっている心の健康管理については、健康管理室を設置するなど産業医や産業カウンセラーなどに相談できる体制を整備するとともに、各工場の保健師を集め、3カ月に1回定期的なミーティングを実施しています。また、社内報での情報発信、健康診断時に従業員にメンタルチェック票を配布するなど、従業員がセルフチェックやセルフケアをできるようにし、予防にも努めています。

▶ 今後の課題・目標

今後は引き続き、ワークライフバランスの向上や健康管理の強化など従業員がやりがいを持ち、さらに生き生きと仕事に取り組む環境を整備するための施策を実施していきます。

また、将来にわたるグローバルな会社の成長を可能とするため、世界に通用する人材の育成とノウハウの継承、多様な人材が活躍できる環境整備などの人事施策の実施に、継続して力を入れて取り組んでいきます。

お取引先様とのかかわり



基本的な考え方

ミネベアグループの事業は多くのお取引先様との関係に支えられています。当社グループでは「資材調達基本方針」を定め、これに基づき健全なパートナーシップを築いています。また、サプライチェーンを通じたCSRを推進するため、お取引先様には「ミネベアグループCSR調達ガイドライン」を配布し、理解と協力をお願いしています。



「資材調達基本方針」および「ミネベアグループCSR調達ガイドライン」の詳細は、ミネベアグループウェブサイトをご参照ください。
<http://www.minebea.co.jp/corp/company/procurements/index.html>

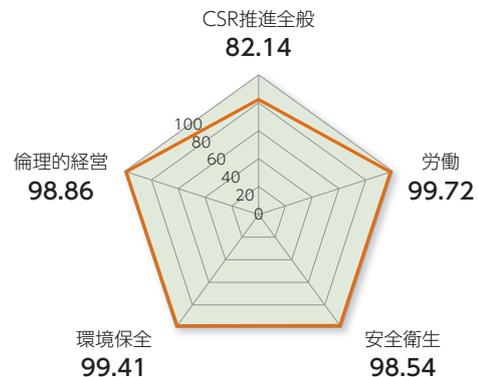
CSR調達

ミネベアグループではグローバルに事業を展開する上で、サプライチェーン全体のCSR推進が重要と考え、2012年3月に、「ミネベアグループ行動規範」を基にした「ミネベアグループCSR調達ガイドライン」を策定し、CSR調達の枠組み構築に取り組んでいます。2012年11月には、ガイドラインに紛争鉱物対応について追記し、お取引先様の対応をお願いしています。

また、お取引先様のCSR推進状況を把握することを目的に、「ミネベアグループCSR調達推進自己チェックシート」を策定し、お取引先様に回答をお願いしています。チェックシートは、「企業の社会的責任(CSR)推進全般」「労働」「安全衛生」「環境保全」「倫理的経営」という5つの柱に関する54の質問項目を設け、お取引先様のCSR推進状況を総合的に把握できるものです。これまでに、国内とタイにおけるお取引先様を対象に調査を実施し、お取引先様におけるCSR活動の推進状況を確認してきました。

2015年度は、中国4工場(上海、西岑、蘇州、珠海)において、取引総額の81%に当たるお取引先様に対し、チェックシートへの回答をお願いしました。集計の結果、全社の平均合計点は500点満点中479点と基準を大きく上回っており、多くのお取引先様でCSRを真摯にとらえ、当社のお願いについても対応いただいていることが分かりました。集計結果は調査にご協力いただいたお取引先様に対してフィードバックしているほか、一部取り組みに課題の見られたお取引先様に対しては個別にコミュニケーションを取ることで、取り組み状況を詳細に確認しています。

中国拠点におけるチェックシート集計結果(項目別平均点)



グリーン調達

ミネベアグループでは化学物質に関する各国の法令・規則への対応、お客様の満足や環境負荷物質の削減を目的として、「ミネベアグループグリーン調達管理要領」を作成・改訂し、お取引先様に対して有害物質を含まない製品(原材料、部品、部材および包装、梱包材料)の提供と、証明書や分析結果報告書などの資料の提出をお願いしています。

また、2015年度には「ミネベアグループグリーン調達管理要領」の改訂を行い、6月に第5版を発行しました。改訂に当たり、タイと中国においてグリーン調達対象企業に説明会を実施し、合計で385社にご参加いただきました。

コンゴ民主共和国産「紛争鉱物」への対応

2012年8月にアメリカ証券取引委員会にて可決された「金融規制改革法」の開示規則を受け、同法律にて規定された「紛争鉱物」に対するミネベアグループの考えをまとめ、2012年10月「ミネベアグループ紛争鉱物対応ポリシー」を制定しました。さらに、「ミネベアグループCSR調達ガイドライン」についても「紛争鉱物対応」について追加し、お取引先様に対して対応を要請しています。

また、お客様からの調査依頼については、引き続き調査用データベースを用いた回答を実施しています。

今後の課題・目標

サプライチェーンを通じたCSRの推進に向けて、グローバルなCSR調達の枠組み構築を進めます。2016年度は「ミネベアグループCSR調達推進自己チェックシート」をマレーシア、シンガポール拠点の主要なお取引先様についても配布・回収し、現状を確認していきます。

地域社会・国際社会とのかかわり

基本的な考え方

ミネベアグループはグローバルに事業を展開する企業として、地域社会との十分なコミュニケーションにより、健全なパートナーシップを構築していくことが重要であると考えています。地域に根差した企業であるために、「五つの心得」を基本に、地域のニーズに合った社会貢献活動を実施しています。

国際社会への貢献

北米での取り組み

高校生の職場体験学習を受け入れ

アメリカ製造子会社New Hampshire Ball Bearings, Inc. (以下、NHBB)のピーターボロー工場は、2016年2月から6月までの4カ月間、近隣のコンバル高校から職場体験学習として生徒9名を受け入れました。

学校とNHBBが共同で企画し、学校の授業に工場での実習を加えた技術教育を目指しています。生徒は、素材から完成品を作るまでのさまざまな業務や、チームワークでの問題解決、改善方法などを学びました。



職場体験学習の参加者

欧州での取り組み

地域イベントへの貢献

ドイツの子会社myonic GmbH (以下、マイオニック)は、拠点のあるロイトキルヒ市の夏祭り「Old town Summer Festival」を支援しています。

この祭りは夏季休暇期間を近場で楽しむ市民のためのイベントとして13年前に始まり、マイオニックは、お祭りの中で行われるスポーツ大会に従業員チームを参加させるなど、毎年支援しています。



バレーボール大会に参加した従業員

中国での取り組み

地域発展に向けた支援活動

中国珠海工場では、従業員ボランティアにより、敬老施設のお年寄りや福祉施設の子どもたちに対する支援物資を

寄贈しています。従業員が出向いて月餅(中国のお菓子)などの食べ物や施設に必要な文具などを寄贈するとともに、レクリエーションを実施するなど施設の方々と親交を深めています。また、献血活動や植樹活動などさまざまな活動を行っています。

上海工場では、従業員ボランティアが中心となり、地震被災地へのかばんや本などの必要物資の収集・寄付や、地元企業協会主催の音楽会へ寄付を行うなど、地域発展のためにさまざまな地域活動を行っています。



従業員ボランティアによる植樹の様子

タイでの取り組み

地域との対話を通じた貢献

NMBミネベアタイは、地域住民の生計向上に向けた支援活動を行っています。

2015年3月には、アユタヤ県チアンラックノイ地区の高齢者の方々20名を招き、ステーキホルダー・ダイアログを実施しました。高齢者の方々の収入を増やし、生活を向上させることが必要とされているなどのご意見を受け、今後の支援を継続して検討しています。

また、2015年6月には、バンパイン工場近隣のチアンラックノイ地区で、収入が少なく、自立困難な世帯を支援するために、95世帯に対して養鶏用の鶏や餌を寄贈しました。



地域の方とのダイアログの様子



▶ 地域社会への貢献

震災復興支援

東日本大震災に対する育英基金として、「公益信託ミネベア東日本大震災孤児育英基金」を設立し、小学生から中学生までの孤児に対して、毎年10万円、返済義務のない育成支援金を支給しています。毎年3月には、支援している中学3年生の子どもたちを東京に招いて、従業員サポーターとともに卒業のお祝いを行っています。

▶ Voice

従業員サポーターとして参加して



藤沢工場
特機事業部 業務課
丸山 美紅

子どもたちにお会いした当初、少し緊張している様子も感じましたが、高校進学後の夢などの話を聞く中で、次第に打ち解け、最後には笑顔が見られました。思い出の一環に携われるとともに、高校入学という新たなスタートを応援でき、大変貴重な経験をさせていただきました。これからも子どもたちの夢を応援し続けられるよう、ぜひまたこのような活動に参加したいと思います。

「袋井市ふるさと防災寄附金」への寄付

浜松工場では、2015年9月に「袋井市ふるさと防災寄附金」に100万円の寄付を実施しました。本寄付は、津波による人命災害ゼロを目指した袋井市による海岸防潮堤整備などの防災対策に利用されます。この寄付は2015年から2019年まで、5年間繰り返し継続する予定です。



左：袋井市 市長 原田 様
右：取締役 専務執行役員 藤田

NPO法人あさまハイランドスポーツクラブへの支援

軽井沢工場では、アマチュアスポーツ振興として、NPO法人あさまハイランドスポーツクラブへの寄付を通して、カーリングを支援しています。寄付金は大会の開催や、ジュニアチーム、車いすチームの支援に利用されています。



カーリング大会(ミネベアカップ)の様子

地域の若者のキャリア支援

ミネベアでは、若者のキャリア支援を目的として、従業員出張講演や職業体験などを実施しています。

2015年度は、藤沢工場で近隣の片瀬中学校で行っている、防災意識向上を目的とした片瀬・江の島フィールドワークの一環として、1年生4名の工場見学を受け入れました。また、(藤沢市立)第一中学校において、「働くとは」をテーマに若手従業員が約80名の生徒の皆さまに講演を行いました。

米子工場では、近隣の箕蚊屋(みのかや)中学校2年生2名の職場体験学習を受け入れました。「製造現場に入るのは初めてで、慣れないこともありましたが、働くことの大切さ、楽しさ、厳しさを学べました」などの感想をいただきました。また、箕蚊屋小学校では、理科の特別授業を実施しました。



米子工場での職場体験の様子

地域の方々との定期懇談会

軽井沢工場と米子工場では、地域の方々との対話を継続するため、定期的に懇談会を実施しています。

軽井沢工場では、年2回、地域の方と話し合いの機会を持っています。2015年11月の第6回定期懇談会では、地域防災、排水処理、雇用、住まい等、幅広い内容について意見を交わしました。

米子工場では、2016年1月、第1回定期懇談会を開催しました。当日は、地区活動や学校関係そして地元企業とのビジネス交流のことなどについて意見交換を行いました。



定期懇談会の様子(左：軽井沢工場、右：米子工場)

▶ 今後の課題・目標

今後も国内外の地域貢献活動に積極的にかかわり、地域社会との信頼関係を深め、共に継続的に発展していける企業を目指していきます。

株主の皆様とのかかわり

▶ 適時開示 / ディスクロージャーポリシー

ミネベアは、法律・法令に沿って適時、適切な情報開示を行うとともに、ディスクロージャーポリシーを定め、積極的な情報開示に努めています。

▶ 株主の皆様とのコミュニケーション

株主総会の実施など

ミネベアは、定時株主総会を毎年6月に開催しています。また、年2回報告書を株主の皆様へ送付することにより、当社の経営状況や方針などについての理解を深めていただけるよう努めています。

機関投資家とのコミュニケーション

機関投資家、証券アナリストの方を対象とした決算説明会・決算説明電話会議を開催しています。説明資料については、ウェブサイト上でも同時に、またはできるだけ早く和英で公開しています。

海外でも、米州、欧州、アジア地区でそれぞれ年1回1週間程度、投資家訪問を行っています。

また、証券会社主催の投資家向けセミナーに参加したり、個別面談を多数行うなどの活動を積極的に行い、財務・非財務どちらの情報も発信しています。

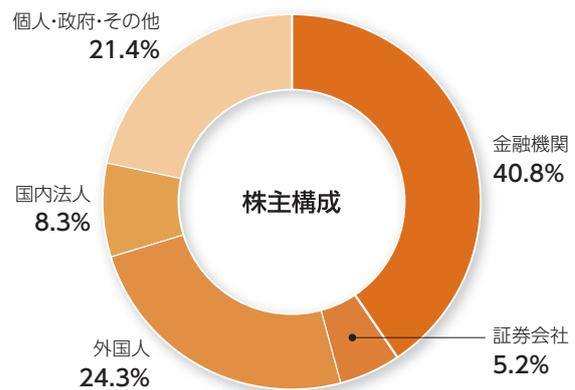
▶ 株主の皆様への還元

ミネベアは、2009年度の現社長執行役員就任時より、「一株当たり利益の最大化を図り、企業価値の向上を目指す」、そして「ミネベア100周年のための基礎固めを行う」という2つの目標を掲げて取り組んできました。2015年度は、売上が3年連続で過去最高となりましたが、利益面では、スマートフォン市場でのお客様の減産を受けたLEDバックライトの出荷数量減少が響き、減益となりました。一方で、ボールベアリングでは外部販売数量の着実な増加、モーターでは自動車向けを中心とした売上増加と収益性の改善、計測機器では買収効果と既存事業の伸びなどにより、それぞれが増収増益でした。これを受け、配当については、2015年度は通期合計で1株当たり8円増配となる20円の配当を実施しました。2016年度は将来の株主還元増大を目指して積極的な成長投資を行うことを踏まえ、配当性向20%程度をめどに配当水準の向上にも努めます。なお、全国証券取引所の「売買単位の集約に向けた行動計画」において普通株式の売買単位を100株に統一することが示され

ていることに対応し、2016年5月より単元株式数を1,000株から100株に変更しました。

また、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため自己株式の取得を行っています。過去には、2008年11月、2010年2月および2011年5月から6月にかけて実施しました。

▶ 株主構成 (2016年3月末時点)



▶ IRウェブサイト

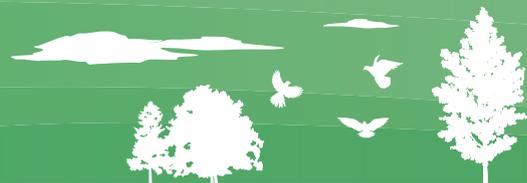
ミネベアの(IR)ウェブサイトが、大和インベスター・リレーションズ株式会社発表の「2015年インターネットIR・優秀賞」と、日興アイ・アール株式会社発表の「2015年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」にて総合ランキング最優秀サイト、業種別ランキング優秀サイトを受賞しました。また、モーニングスター株式会社ゴメス・コンサルティング事業部の「Gomez IRサイト総合ランキング2015」銀賞を受賞しました。今回の受賞で、この3社の賞については8年連続の受賞となります。



▶ 今後の課題・目標

今後もIR活動の充実により、株主の皆様とのコミュニケーションの場を広げ、より多くの株主、投資家の皆様にミネベアへの理解を深めていただけるよう取り組んでいきます。

環境マネジメント



基本的な考え方

ミネベアグループでは、「ミネベアグループ環境方針」の下、環境マネジメントシステムを構築し、グループ全社にて地球環境保護および人類の持続的な発展に貢献するよう努めています。

その具体的な取り組みとして、エネルギー効率の高い設備、プロセスを採用し、グループ全体のCO₂排出量を基準年(2010年度)から2015年度までに生産高原単位で5%削減するよう取り組んできました。その結果、グループ全体で生産高原単位55%のCO₂削減が達成されました。

また、原材料、水などの資源を有効に活用するため、工場からの廃棄物、排水が最小限となるよう、取り組みを強化しています。同時に、高効率モーター、高効率照明、高効率エネルギー変換デバイス、およびビル、工場、都市住環境のスマート化に欠かすことのできない通信制御技術やセンサー、新素材の開発などにも積極的に取り組み、製品を通じた環境への貢献を進めています。

環境マネジメントシステム

環境マネジメント体制

ミネベアグループでは、「ミネベアグループ環境方針」を実践するために、取締役会、社長執行役員をトップとした環境マネジメント体制を構築しています。全体の推進組織として、役員を中心とした環境マネジメント委員会と実務者によるグループ環境対策委員会を設置し、環境政策について迅速に対応できる体制としています。また、各事業所に事業所環境管理総括責任者と環境管理責任者を配し、工場、事業所ごとに具体的な環境保全活動を推進しています。

環境監査

ミネベアグループでは、世界中の主要拠点においてISO 14001の認証取得を推進しています。既存工場はすべて認証を取得しており、新設や新たにミネベアグループに加わっ



2015年9月、新たにISO14001認証を取得したタイ・バンワ工場

た工場なども認証取得計画に基づき環境マネジメント活動を開始しています。2015年9月には、ライティングデバイス Тай における新たな製造拠点となるバンワ工場がISO14001認証を取得しました。

また、2015年9月にISO14001の規格改訂が行われたことを受け、ミネベアグループの主要な工場、事業所は2017年度中に2015年版規格への移行を完了する予定です。2016年4月にはミネベアグループ環境マネジメント規定類をISO14001:2015年版に準拠するための改訂を行いました。

環境教育

基本的な考え方と2015年度の取り組み(日本)

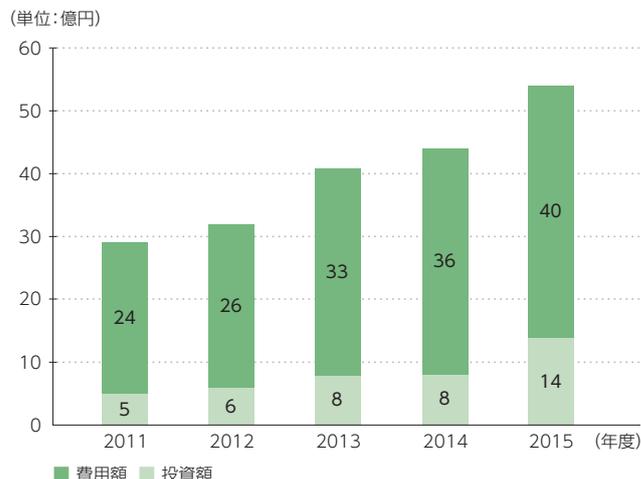
ミネベアグループでは、一人ひとりの環境意識を高めるため、新入社員や中途採用者、研修生、帰国者などに対して環境マネジメント基礎教育を実施しています。

また、すべての従業員を対象にして、ミネベアグループ環境方針や各事業所のISO14001に基づく環境目標、実施計画などの環境マネジメント教育や廃棄物の分別教育、緊急事態への対応訓練などを実施しています。

ミネベアの環境会計

ミネベアグループは、環境保全対策へのコストとその投資効果を認識するため、環境省が発行する「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、環境会計の集計を行っています。当社グループの2015年度の環境保全コストの総額は5,416百万円で、2014年度と比較して22%増加しました。

2011年度～2015年度の環境保全コストの推移



環境マネジメント

▶ 生物多様性保全への取り組み

基本的な考え方

ミネベアグループでは、2012年度に改定した「ミネベアグループ環境方針」に「国際社会への貢献」を加え、当社グループの事業活動が自然界の生態系や生物多様性に影響を与える可能性を認識し、自然界の保護に努めることを表明しています。

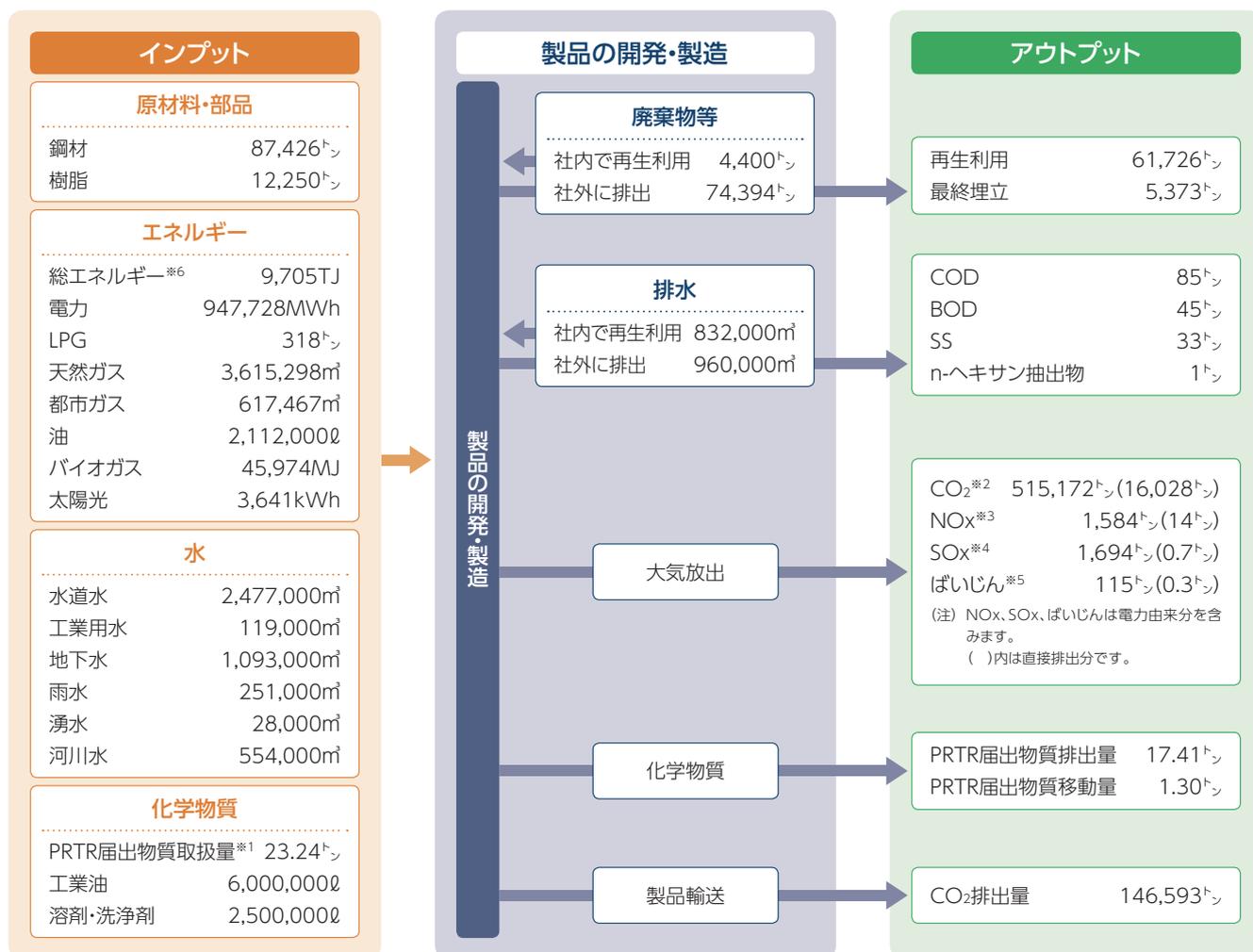
▶ ミネベアの環境負荷

ミネベアグループは、世界15カ国に製造拠点を有し、主力のベアリングをはじめとする機械加工品、電子機器など、多様な製品を生産、販売しています。環境負荷を売上高の生産地域別比率から見た場合、当社グループは日本を除くアジア地域で約8割を消費、あるいは排出しています。

2015年度は、売上高が前年度比で22%増加しましたが、総エネルギー消費量は1%の減少、工業油はほぼ前年度と同量、溶剤・洗浄剤についても9%の増加に留まり、売上高の増加と比較して、環境負荷を低く抑えることができました。

2015年度の当社グループの環境負荷は以下のとおりです。

▶ インプット・アウトプット(2015年度実績)



※1 PRTR物質：PRTR法(化学物質排出把握管理促進法/日本国内法)により排出量・移動量を把握し、届け出ることを定められた化学物質。記載した数値は行政に届出した量。

※2 CO₂：二酸化炭素

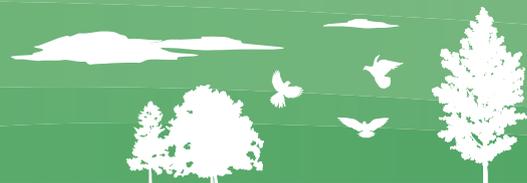
※3 NOx：窒素酸化物

※4 SOx：硫黄酸化物

※5 ばいじん：燃焼、加熱および化学反応などにより発生する排出ガス中に含まれる粒子状物質

※6 総エネルギーの2014年度の集計に誤りがありました。 正)9,795TJ 誤)9,541TJ

地球温暖化防止の取り組み



▶ 基本的な考え方

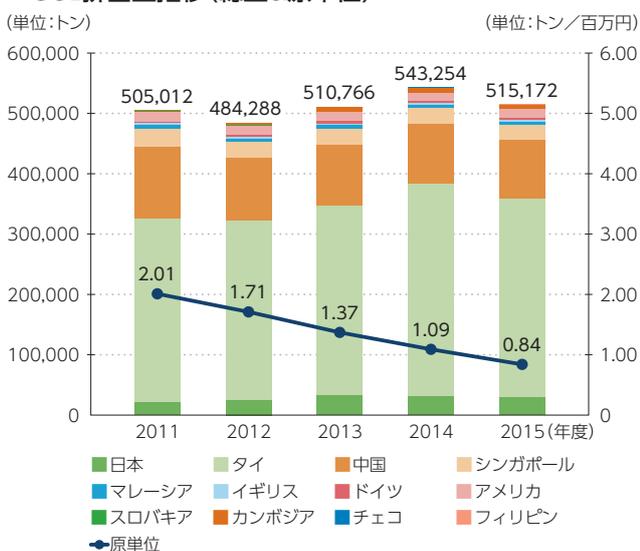
ミネベアグループでは、世界規模での課題となっている地球温暖化問題と、その影響によるエネルギー価格の上昇や異常気象の発生などが、事業活動の継続にも大きな影響を与えていると考えています。

当社グループでは、地球温暖化防止に取り組むため、各事業所で積極的に省エネルギー対策を進めてきており、それぞれの代表的な対策を終えています。

▶ 2015年度の取り組み結果

2015年度のミネベアグループ全体のCO₂排出量は515,172トンで、2014年度と比較して5%減少しました。一方、生産高原単位によりCO₂排出量をとらえた場合は、0.84トン/百万円で、2014年度より23%減少しました。この要因は、事業の好調に伴いエネルギー効率の高い生産が行われたことと、世界各工場でCO₂排出量を削減できた結果です。

▶ CO₂排出量推移(総量&原単位)



▶ オフィスにおける取り組み

東京本部ビルの省エネ対策(日本)

東京本部は2013年1月に都内に新たに購入した自社ビルに移転し、同年10月より本格的にISO14001環境マネジメント活動を開始しました。

2015年度は空調運転の条件見直しや、照明の消灯・減灯、また全従業員に対してクールビズの呼びかけを行うなど、ハード・ソフト両面から省エネルギーに取り組み、ビル全体での電力使用量を2013年度比(基準年度比)で8.4%削減できました。空調における電力使用量を削減した分、夏季

に冷房に使用する冷温水発生機の都市ガス量が若干増えましたが、両エネルギーを合算した2015年度のCO₂排出量を2013年度比で4.3%削減することができました。

また、環境省が毎年夏至の日と七夕の日に全国のライトアップ施設や企業、家庭に照明の消灯を呼びかける「ライトダウンキャンペーン」に協賛し、2015年6月22日と7月7日の夜8時から10時までの2時間、東京本部ビルのライトアップ照明を消灯し、6kwの電力を削減しました。

▶ 物流部門の取り組み

物流のCO₂排出量

ミネベアグループは自社の直接のCO₂排出であるスコープ1(ガス、石油)、スコープ2(電気、蒸気、熱)のCO₂排出量に加え、スコープ3(その他)となる物流(製品輸送)のCO₂排出量の把握に取り組んでいます。

2015年度の当社グループの製品輸送によるCO₂排出量は146,593トンで、2014年度と比較して67%増加しました。

物流部門では製品の出荷輸送に際して、CO₂排出量の少ない鉄道輸送や船舶輸送を可能な限り利用するよう努めています。

▶ 物流のCO₂排出量



▶ 今後の課題・目標

ミネベアグループでは、今後も引き続き地球温暖化防止に向けて取り組みを進めていきます。

2020年、2030年といった将来の長期的な展望としては、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書やCOP21(国連気候変動枠組条約第21回締約国会議)で採択された「パリ協定」、各国から提出された約束草案などを注視し、対策を進めていきます。

資源の有効活用の取り組み

基本的な考え方

ミネベアグループの製品に欠かせない金属、プラスチックなどの原材料や、エネルギー源となる石油、天然ガスなどは、その埋蔵量に限りがあります。また、電子機器製品に不可欠なレアアース(希土類元素)は、産出国に限られるため、輸出制限などを受けやすくなっています。

当社グループでは、事業活動の継続のためには資源の有効活用が重要であると考え、経営的な視点から取り組みを行っています。

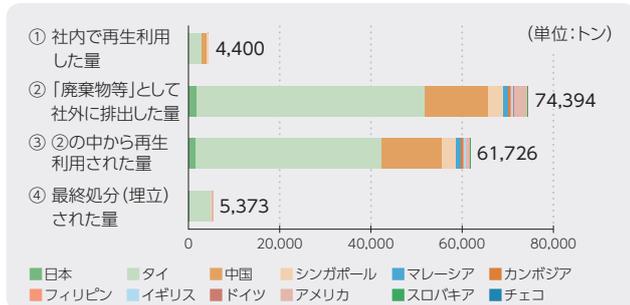
2015年度の取り組み結果

2015年度にミネベアグループ全体で使用された主な原材料は、鋼材:87,426トン、樹脂:12,250トンで、合計量は2014年度と比較して約3%の増加でした。

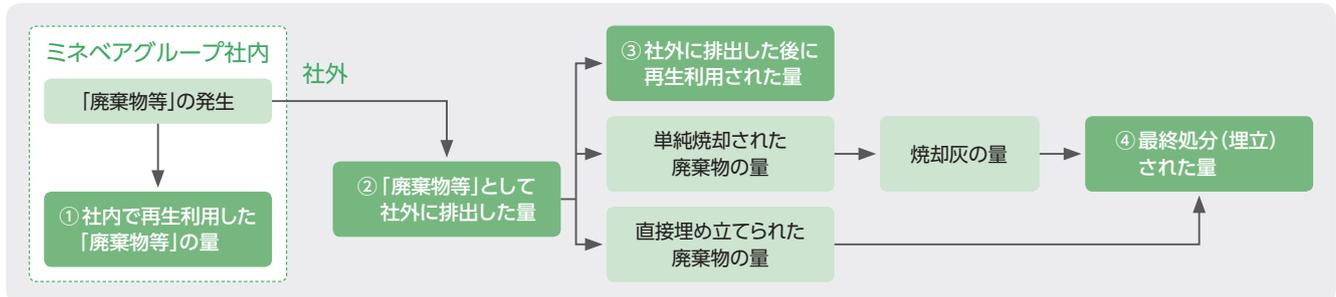
一方、当社グループから社外に排出された後、最終処分(埋立)された廃棄物量は5,373トンでした。2014年度から比較した場合、2015年度は55トンの増加となりました。これを生産高原単位で比較した場合、2015年度は2014年度に比べて17%減少しました。

また、当社グループではタイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りリサイクルし、工場外に排出しない「工場排水ゼロシステム」を運用しています。2015年度の当社グループにおける工場排水量は960,000m³で2014年度と比較して67,000m³の増加となりました。

廃棄物処理実績(2015年度実績)



ミネベアから発生する廃棄物等の流れと把握方法



事業所における取り組み

雨水および河川水の有効利用(タイ)

NMBミネベアタイのバンパイン工場では、雨水を工場敷地内の貯水池にため、「雨水再利用装置」で浄化処理した後、工業用水として使用することで、水道水の使用量を削減しています。

また、2012年度からは工場に供給される水道水の利用を大幅に減少させることを目的に、工場近郊に流れるチアンラックノーイ運河からの河川水を浄化し、水道水の代替として使用を開始しました。これにより、水道水利用におけるコストも削減することができました。



バンパイン工場の雨水池と雨水再利用設備

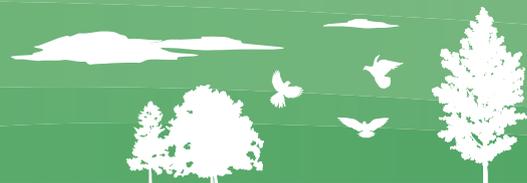
食堂から排出される生ごみのバイオガス化(タイ)

NMBミネベアタイでは、タイ国エネルギー省が主催する「食べ物の生ごみを有効利用するバイオガス・エネルギー推進計画」に参加し、バイオガス発生プラントをバンパイン工場とロッブリ工場に設置しています。得られた環境負荷の少ないバイオガスは、LPガスの代替燃料として食堂の調理に利用しています。

今後の課題・目標

2016年度の廃棄物排出量を生産高原単位で2015年度比1%削減として取り組みを進めます。

環境負荷物質削減の取り組み



基本的な考え方

工場からの流出、放出を発端とする水質汚濁、大気汚染や土壌汚染などは、周辺の地域社会にとって脅威になります。ミネベアグループでは、地域との共存が事業活動において不可欠であるとの考えから、環境負荷物質の削減に取り組んでいます。

2015年度の取り組み結果

ミネベアグループでは、各国、各地域の環境法令を遵守するために、管理の難しい工場排水等においては、国や周辺地域の法令基準を上回る自主基準値を設定し、日々の監視を行っています。2015年度は当社グループのすべての工場で、漏洩や異臭、騒音、振動など周辺地域に迷惑をかけぬよう、日常の監視や環境パトロールを一層強化しました。

事業所における取り組み

工場排水の浄化

ミネベアグループでは、排水を河川に放流する際、工場保有の排水処理設備で使用済みの排水を基準値内まで浄化しています。また、各国および所在地域の法令に従って、排水中のpH^{※1}（ピーエッチ）、COD^{※2}（化学的酸素要求量）、BOD^{※3}（生物化学的酸素要求量）、SS^{※4}（懸濁物質質量）、ノルマルヘキサン抽出物質^{※5}（油分）などを定期的に測定し、自主的に工場排水の監視を行っています。

- ※1 pH（ピーエッチ）：酸性がアルカリ性を示す尺度。pH7が中性。7より小さいほど酸性が強く、7より大きいほどアルカリ性が強い。
- ※2 COD（化学的酸素要求量）：水中の有機物（汚れ）を酸化剤によって酸化するのに消費される酸素量。BOD測定と比べ短時間に測定できるが、信頼性は劣る。CODは一般的に海、湖沼への排水管理に用いられる。
- ※3 BOD（生物化学的酸素要求量）：水中の有機物（汚れ）を微生物が分解するときに必要な酸素量。BODが大きいほど水質は悪い。測定に数日を要する。BODは一般的に河川への排水監視に用いられる。
- ※4 SS（懸濁物質質量）：水中に浮遊している物質の量。数値が大きいほど水質汚濁が著しい。
- ※5 ノルマルヘキサン抽出物質：水に含まれる揮発しにくい油や洗剤などを、ノルマルヘキサンという薬品で抽出した物質。当報告書では鉱油量を表す。



藤沢工場の排水処理設備

バンパイン工場がタイの工業省より水質保全優秀賞を受賞(タイ)

NMBミネベアタイは、タイの工業省が主催する「企業は河川を愛するプロジェクト」で、環境保護、水質保全への取り組みが認められ、水質保全優秀賞を受賞しました。当プロジェクトは、シリキット王妃の83歳の誕生日（2015年8月12日）を祝って、環境保全、環境復元の大切さを人々に教育、啓発することを目的としています。

バンコク市内の国立劇場で行われた表彰式では、優秀賞を受賞した6社のうちの1社として、東南アジア総支配人の今仲が、タイ工業省のプラモット・ウィッタヤスク副大臣より表彰を受けました。



工業省プラモット・ウィッタヤスク副大臣より表彰を受ける当社の今仲東南アジア総支配人

工場排水ゼロシステムの運用(タイ、中国)

ミネベアグループには製品の加工工程で大量の水を使用する工場があり、排水の削減に取り組んでいます。工場で使用された水は、各国各地域の環境法令基準値以下まで浄化され、放流されますが、それでも地域周辺への環境影響はゼロとはいえません。そこで、当社グループでは水使用量の多いタイ、中国の工場において「工場排水ゼロシステム」を導入し、放流する工場排水とその環境影響のゼロ化に取り組んでいます。

このシステムでは、従来、浄化・放流していた排水をさらに浄化し、全量を工場内の使用水に戻すことで、排水をなくします。現在、「工場排水ゼロシステム」はタイのバンパイン工場、アユタヤ工場、中国の上海工場、西岑工場で導入しています。

今後の課題・目標

ミネベアグループは、引き続き国内外の環境法令を遵守した事業活動を行うとともに、過去に発生させた環境汚染について、浄化作業を進めていきます。

製品における環境への取り組み

▶ 基本的な考え方

ミネベアグループの製品は、さまざまな最終製品に組み込まれる部品だからこそ、有害な環境負荷物質を含まない安全な製品であることや、省エネルギー、省資源、長寿命といった、ライフサイクル全体に貢献する環境に配慮した製品を提供していくことが重要であると考えます。

▶ ミネベアグループの環境配慮製品

ミネベアグループが生産、販売する製品は、開発・設計段階から各国の環境法令やお客様の環境要求事項に従うだけでなく、自主的にも製品含有化学物質調査や製品アセスメントなどを行っている「環境配慮製品」です。

新型LED照明器具「SALIOT (Smart Adjustable Light for the Internet Of Things、サリオ)」を量産・販売開始

ミネベアグループは、LEDバックライトで培った導光板の技術・樹脂成形技術を応用し、業界初*となる光の配光角を変えることができるLED照明器具「SALIOT (サリオ)」を開発し、2015年7月より、量産・販売を開始しました。

「SALIOT」は、発光ダイオードとレンズの距離をモーターで制御することで、光の配光角を10°から30°まで調整できます。さらに、無線技術を応用した独自のソフトウェア開発により、スマートフォンやタブレットで配光角・明るさ・照射位置を容易にコントロールすることができる新製品です。

「SALIOT」は、1台の照明で複数の光を演出することが可能で、特に大型・高天井のショッピングセンターなどの商業施設、カーディーラーなどのショールーム、博物館・美術館、教育施設、イベントスペース、ホテルなど、さまざまな場面での使用が見込まれています。照明器具の調整に伴う高所作業の危険を排除するとともに、照明のLED化による省エネルギーにより、さまざまな課題の解決に貢献します。



SALIOTの外観

* 当社調べ。2015年7月時点

ターボ用高耐熱性ボールベアリングユニット

ミネベアグループは、超高温となるターボチャージャー(エンジンへの空気過給器)内で焼き付きを起こさない「高耐熱性ボールベアリングユニット」を開発し、生産販売しています。内部のボールはセラミックス製で、ボールを挟み込む外装は耐熱素材を使用し、軸受が膨張して焼き付かないよう工夫されています。

現在、世界の自動車メーカーは環境への配慮からエンジンの燃費改善に力を注いでいます。その対策として、従来より小さな排気量のエンジンに過給器を搭載して出力を補い、燃費改善につなげています。

今後、燃費規制の厳しい欧州や日本、大型ガソリン車の多い北米での採用が一層広がると見込まれています。



ターボ用高耐熱性ボールベアリングユニット

▶ 製品に含まれる環境負荷物質の管理

ミネベアグループでは、「ミネベアグループグリーン調達管理要領」を発行し、お取引先様に対して有害物質を含まない製品(原材料、部品)の提供と、それらを実証するデータ、資料の提出をお願いしています。また、当社グループの受け入れ検査においてもXRF(蛍光X線分析装置)を用いて、RoHS指令が規定する有害物質の含有がないことを確認しています。

▶ 今後の課題・目標

ミネベアグループは、今後も引き続き社会の具体的なニーズを的確にとらえ、安全で省エネルギー、省資源に貢献する製品の開発に取り組んでいきます。

ミネベアグループCSRレポートを拝読して



株式会社日本政策投資銀行
産業調査部長

竹ヶ原 啓介氏

ミネベアグループCSRレポート2016は、ESG*の各分野をバランスよく、かつ詳細に記述するこれまでのスタイルを踏襲しつつ、内容面では、貴社CSRの更なる前進をしっかりと伝えていきます。今回の変化のポイントは、巻頭のトップコミットメントに端的に示されています。まず、経営の基本方針として、貴社のCSRを規定していた「五つの心得」が社是に格上げされ、ステークホルダーの期待を反映した価値創造を、グループを挙げて追求していく姿勢が明確に打ち出されました。これを受けて、海外拠点を含むグループ全体でCSR戦略を進めるための体制整備と、ステークホルダーとの直接対話という、報告書を通底する2つの主題が浮かび上がります。

グループ横断的な体制強化の取り組みは、中国・上海ミネベアでの取り組みを紹介する巻頭特集により、貴社を語る際のキーワードでもあるグローバル化に絡めて具体的に例示されています。しかし、貴社の凄みは、中国拠点でのCSR調達調査が示すように、CSR体制強化の一環として広くサプライチェーンまで見据えている点に求めるべきでしょう。海外拠点におけるサプライチェーン管理は、CSRのバウンダリー*を考える上で重要なテーマながら、わが国では、まだ情報開示例も少ないだけに、印象的なコンテンツです。

ステークホルダーとの直接対話を重視する姿勢は、昨年

の米子工場に続いて浜松工場で行われた対話にみられるように、「地域」を対象に着実に深まっているほか、今号では、「従業員」に対してより顕著になりました。上海やグローバル人材の事例紹介で具体的に示されている、ダイバーシティや人材育成、働きやすさ（ワークライフバランス、健康管理）など多岐にわたる取り組みを、離職率や時間外労働などの関連データと合わせて開示している点は、「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と定める五つの心得を文字通り体現しているように思います。

また、環境面では、増収基調のなかグループ全体のCO₂排出量を対前年比で総量で5%、生産高原単位で23%減少させるなど、デカップリング*が実現されています。先行してグループ横断的に運用されているEMS*が機能し、着実に成果を上げている事実は、CSRのグループ展開の今後を占う上での好材料といえましょう。

一方、今後については、研究開発や技術力に関する記載の一層充実を求めたいと思います。経営統合によるプロダクトポートフォリオの変化を控えることに加え、成長戦略ともいべき新「5本の矢」戦略や、CSR活動方針に掲げる「製品を通じた社会価値の創造」を体現し、貴社の特徴を最もよく示してくれる情報と考えられるためです。

※ESG：環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字をとったもの

※バウンダリー：組織の影響が発生する範囲

※デカップリング：一定の経済成長や便利さを維持しつつも、エネルギー消費を減らしていく、両者を「切り離す」という考え方

※EMS：Environmental Management Systemの略。環境マネジメントシステム

竹ヶ原 啓介氏

一橋大学法学部卒業後、日本開発銀行（現株式会社日本政策投資銀行）に入行。調査部や政策企画部、フランクフルト首席駐在員、環境・CSR部長等を経て、現職。その他、環境省「環境格付融資に関する課題等検討会」委員、「環境成長エンジン研究会」委員、内閣官房「環境未来都市推進委員会」委員、内閣府「環境未来都市推進ボード実施推進会議」委員などを務める。

第三者意見をいただいて



常務執行役員
人事総務本部長

松田 達夫

竹ヶ原様には本年度も大変貴重なご意見を賜り、まことにありがとうございます。当社グループのCSRへの取り組みの前進を評価いただき、大変うれしく思っております。

本年度のレポートでは、2つの特集記事として、電子機器製造本部の開発拠点である浜松工場周辺地域の皆様との

対話、および中国・上海ミネベアでのCSR活動を掲載しました。上海ミネベアの従業員や地域社会とのかかわり、および環境への取り組みは当社グループの社是「五つの心得」を体現する活動ではないかと思っています。

社会性報告のCSR調達に関する中国での取り組みの開示については、高い評価をいただきました。これに満足することなく今後もグローバルでのサプライチェーンの管理に取り組んでまいります。

ご指摘をいただきました研究開発や技術力についての記載は、次回のレポート以降で充実させていく所存です。また、2015年度CSR目標の未達成のものについては、今年度以降の課題と認識しており、改善の取り組みを続けてまいります。

Minebea

Passion to Exceed Precision

東京本部
〒108-8330 東京都港区三田3-9-6
TEL:03-6758-6711(代表)
FAX:03-6758-6700
<http://www.minebea.co.jp/>



この印刷物に使用している用紙は、
森を元気にするための間伐と
間伐材の有効活用に役立ちます。



ミネベアグループは、林野庁が推進する「木づかい運動」を
応援しています。
この冊子の制作には、国産木材が製紙原料として活用され
ています。国産材を積極的に活用することで、日本の森林が
整備され、CO₂の吸収量拡大に貢献します。

